

横沢柴崎遺跡

店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2022. 6

大和ハウスリアルティマネジメント株式会社
前橋市教育委員会
技研コンサル株式会社

横沢柴崎遺跡

店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2022. 6

大和ハウスリアルティマネジメント株式会社
前橋市教育委員会
技研コンサル株式会社



遺跡周辺景観 赤城山を望む（南から）



調査区全景（上が東）



J-1号住居跡（上が北）



J-1号住居跡 全景(西から)



J-1号住居跡 主体部(北東から)



J-1号住居跡 炉と埋設土器(東から)



J-1号住居跡 張出部(東から)



J-1号住居跡 環縫状況(東から)



J-1号住居跡 埋設土器1(西から)



J-1号住居跡 埋設土器2(北から)



J-1号住居跡 ビット及び掘方(西から)

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる群馬県の県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始め、市内のいたる所にその息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王廃寺、国府、国分僧寺、国分尼寺など上野国の中核をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東七名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた前橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地となり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する横沢柴崎遺跡は縄文時代の遺跡が多く確認されている赤城山南麓にあり、店舗の建設に伴い発掘調査を行いました。今回の調査では、敷石を伴う縄文時代の竪穴住居跡等が検出されました。縄文時代の竪穴住居跡で敷石の残存状況が良いものは、本市では比較的例が少なく、貴重な発見となりました。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、開発者である大和ハウスリアルティマネジメント株式会社をはじめ、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進めることができました。また、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

令和4年6月

前橋市教育委員会
教育長 吉川 真由美

例　　言

- 1 本書は、店舗建設に伴う「横沢柴崎遺跡」の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査から報告書作成に至るまでの作業は、前橋市教育委員会の指導のもと大和ハウスリアルティマネジメント株式会社の委託を受けて技研コンサル株式会社が実施した。
- 3 発掘調査及び整理作業の体制は、下記のとおりである。

遺跡名：横沢柴崎遺跡（前橋市0182遺跡）　　遺跡コード：3113
所在地：群馬県前橋市横沢町32番　　調査面積：152m²　　標高：約171m
監理指導：並木史一（前橋市教育委員会）　　調査担当：三宅敦気（技研コンサル株式会社）
発掘調査期間：2022年3月1日～3月25日　　整理作業期間：2022年3月26日～6月30日
発掘調査及び整理作業参加者
大川明子 佐野一未 曽根 裕 松村春樹（技研コンサル株式会社）
安藤美恵子 太田英明 太田文江 小楠和也 川野京子 木暮朱実 小畠淳一 杉田友香 立川千恵子
田所順子 田村洋明 平澤小夜子 細野竹美 本田勝彦 水野さかゑ 田村稔男 山口直子 六本木和幸
4 本書の図版は松村がを行い、原稿執筆についてはIを並木、他を三宅が担当した。
5 本調査の出土遺物及び図面・写真等の資料は、一括して前橋市教育委員会で保管している。
6 下記の諸氏、機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。（敬称略）
日沖剛史 前原 豊 山口逸弘 山下工業株式会社 環境建設株式会社

凡　　例

- 1 遺構図は、方位を座標北として世界測地系に基づく国家座標値を使用した。基準線数値は、標高を記した。
- 2 挿図に国土地理院発行1/200,000『宇都宮』『長野』、1/25,000『前橋』『渋川』『大胡』『鼻毛石』、前橋市発行1/2,500都市計画図に加筆して使用した。
- 3 遺構の記号名称は、縄文時代住居跡：J、土坑：D、ピット：P、溝：Wである。
- 4 遺構図・遺物図の掲載縮尺は、次のとおりで各図中にスケール等を示した。
全体図：1/100　　遺構図：1/30、1/60　　土器図：1/3、1/4　　石器図：1/1、1/3、1/6
- 5 遺構・遺物の寸法等は、およそ最大計測値を記した。破損している場合は、現存値を（ ）内に示した。
- 6 挿図中に使用したトーン表示や記号については、各図中に注釈を示した。

目　　次

巻頭図版1・2

はじめに

例言・凡例・目次

I	調査に至る経緯	1
II	遺跡の位置と環境	2
III	調査の方針と経過	5
IV	基本層序	6
V	遺構と遺物	7
VI	まとめ	21

写真図版

I 調査に至る経緯

令和3年6月、横沢町における店舗建設を目的とした埋蔵文化財の取扱いについて前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）へ照会があった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「前橋市0182遺跡」内であるため、文化財保護法第93条第1項の届出を提出する必要がある旨を開発事業者である大和ハウスマネジメント株式会社（以下「開発者」という。なお、開発者名称は、発掘調査実施時のものであり、照会時の組織は大和情報サービス株式会社であった。）へ回答するとともに、当該届出の回答には確認調査を要する旨を説明した。

同年7月20日、開発者からの試掘確認調査依頼に基づき、市教委で確認調査を実施した。確認調査の結果、縄文時代の遺構を確認したため、開発者と工事計画の変更による遺跡の現状保存に向けて協議を行ったが、計画変更是困難であることから、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意に至り、令和4年1月20日、開発者から最終的な工事計画で文化財保護法第93条第1項の届出が提出された。

発掘調査の実施にあたり、市教委は他の直営調査を実施中で、本開発に係る直営での調査実施は困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、市教委の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、民間調査組織による発掘調査とした。令和4年2月21日付けで開発者と民間調査組織である技研コンサル株式会社との間で業務委託の契約が締結されるとともに、両者に市教委を加えた三者で協定を締結し、発掘調査に着手した。

なお、遺跡名称「横沢柴崎遺跡」（遺跡コード：3113）の「横沢」は町名、「柴崎」は旧小字名を採用した。

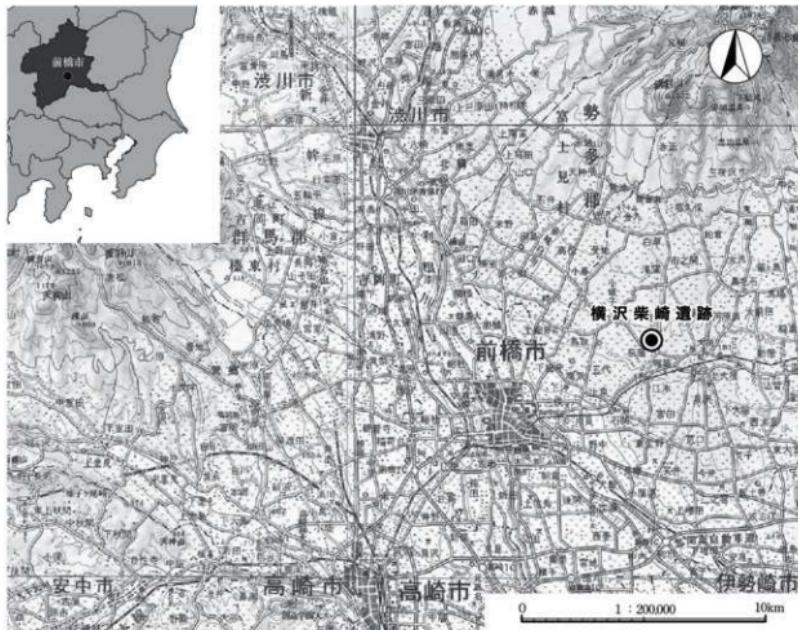


Fig. 1 遺跡の位置

II 遺跡の位置と環境

1 地理的環境 (Fig. 2・3)

赤城山は、およそ 50 万年前から噴火と山体崩壊を繰り返して形成されている。その南面には、現在の山頂カルデラができる以前、58,000 年前頃の大規模噴火による大胡火碎流として広い範囲に台地を造った。また、この前後の数万年をかけて、現在の渡良瀬川、粕川、荒紙川、白川などの流域では、大間々扇状地をはじめとする大きな扇状地が堆積している。ほとんどの火碎流台地や扇状台地の上には、関東ローム層と呼ばれる赤土がさらに 1 mほど積もっている。赤城山全体はこれらの土壤の堆積によって、なだらかに広がる放物線を描いて流麗かつ雄大な景観をみせている。山裾は旧利根川の浸食により直線的な段丘が形成され、こより下面には、24,000 年前頃に利根川が浅間火山泥流を押し出した前橋台地として一帯に堆積している。

現在、山裾ラインに沿った利根川の旧河道には、広瀬川や桃ノ木川が流れている。赤城山の南麓では、放射状に枝分かれした谷地状沖積地と、狭長にのびる丘陵状台地とが複雑に入り組んだ地形が発達している。これらは、数万年もの長い時をかけて、山麓を流れる数多くの小河川が火碎流・土石流・泥流の堆積地を浸食し続けることによってできあがった幾筋もの開析谷と開析台地が連続する姿である。

今回の調査地点は、上毛電鉄江木駅から北北東へ約 1.2km、市役所大胡支所から西へ約 1.8km にあたり、前橋市横沢町 32 番地に所在する。大正用水から北へ約 1 km、主要地方道渋川・大胡線の北側の寺沢川から東へ 130 mほど離れて位置する。また、当地点は寺沢川東岸に細長く続く舌状台地上にあたり、寺沢川沖積地が幅約 150 mに対して 2 倍ほどの幅があり、南西に向かって緩やかに傾斜する標高約 171 m の畠地に立地する。当地点と寺沢川の中間に、川沿いの水田面と台地上の畠地を分ける比高約 6 m の崖面が続いている。

2 歴史的環境 (Fig. 3・Tab. 1)

本遺跡から半径約 2 km の周辺地形図に「マッピングぐんま」による周知の埋蔵文化財包蔵地を重ねてみると、このあたりには台地と谷地が入り組んだ地形が続き、標高 250 m 以上では遺跡数が極端に減少することがわかる (Fig. 3)。旧石器時代から連続と続く集落跡・古墳・城館跡など生活の痕跡は、台地のほとんど全面に確認することができる。本遺跡の北側でも、柴崎遺跡 [37]・茂木二本松遺跡 [36]・横沢柴崎古墳群 [38]・横沢向山遺跡 [35]・横沢向田遺跡 [34]・堀越丁二本松遺跡 [33]・堀越丙二本松遺跡 [32] などが台地に沿って縱に連なっている。

旧石器時代の遺跡は、東へ 1 km ほどの場所に堀越甲真木 B 遺跡 [39] のほか、上武道路の発掘調査のように新たに数珠つなぎでみつかっていることから、未だに埋もれている遺跡が数多くあると思われる。

縄文時代になると、周辺遺跡からも草創期・早期の土器がみつかっている。前期・中期ともに 20 以上の遺跡から住居跡が検出され非常に増大している。芳賀東部团地遺跡 [3]・川白田遺跡 [4]・横沢新屋敷遺跡 [27]・五代伊勢宮遺跡 [6]・堀越並木遺跡 [30]・上ノ山遺跡 [46] の大規模集落を代表として数多くの遺跡が確認されている。後期には極端に減少するものの、この周辺でも 5 遺跡から集落跡がみつかっている。



Fig. 2 前橋の地質

縄文晩期から続く弥生時代では、この周辺には遺跡がほとんど確認できず、赤城山麓以下の低地部に生活域が移動したものと考えられる。その後、このあたりでは、昭和10年「上毛古墳総覧」において約190基もの古墳が確認されていたが、平成29年「群馬県古墳総覧」をみると正円寺古墳〔20〕をはじめ新田塚古墳〔15〕・堀越古墳〔53〕など著名古墳を含めて18基しか現存していない。

古墳時代から奈良・平安時代の遺跡は、芳賀東部团地遺跡群〔3〕・五代木福遺跡〔7〕・繪峯遺跡〔12〕・荻窪倉敷遺跡〔13〕・亀泉西久保II遺跡〔18〕・富田漆田遺跡〔26〕など巨大な集落跡がみつかっている。

中近世では、城館跡を代表する大胡城跡〔54の東〕女堀のスタート付近にあたる石関西田遺跡〔19〕寺院跡の天神風呂遺跡〔43〕のほか、茂木古墓跡〔45〕や備蓄銭の遺跡などがあげられる。

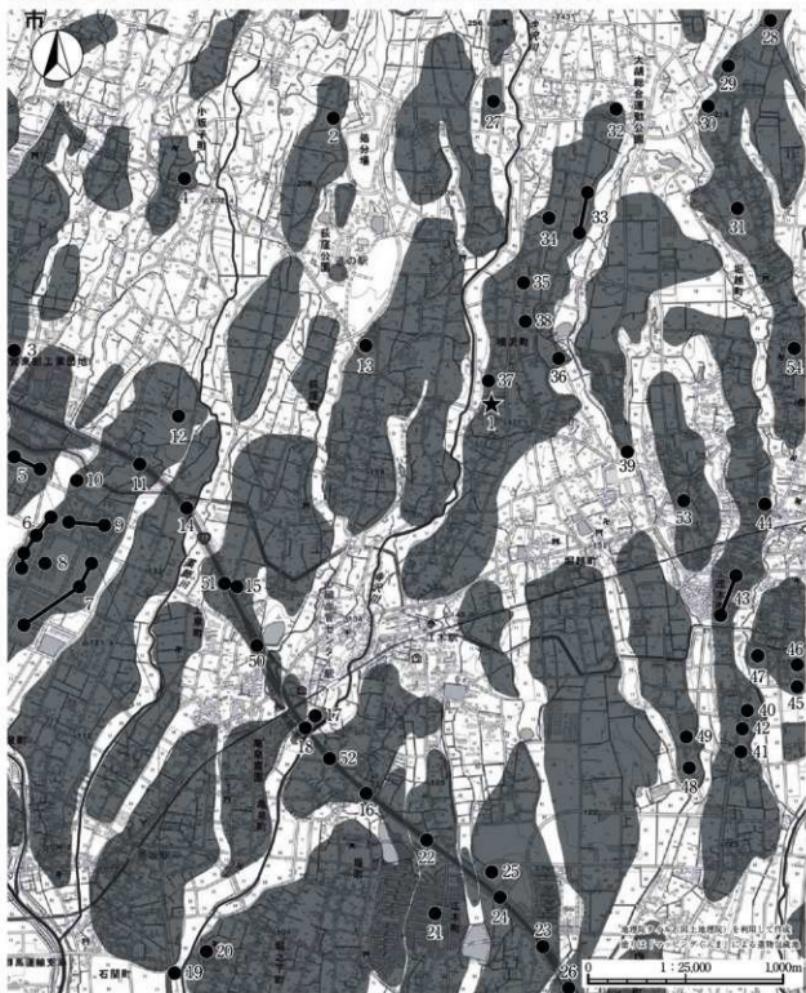


Fig. 3 周辺遺跡図

Tab. 1 周辺遺跡一覧表

No	遺跡名	府県市 町村編番号	田石器				縄文			古墳		良食 平実	中近	特記	文献
			I	II	III	IV	V	草創・零	前	中	後	住居地	墳墓		
1	横沢柴崎遺跡	0182			○				住2	○				鐵石	本報告書
2	小坂子一本木遺跡	0030			○	○	○	○	住1						60, 63
3	秀賀東山遺跡群	0051			○	住51	住3	住5	住75	4系	住425	館・銅鉄	鐵石・土坑群	6, 10, 13, 28, 29, 59	
4	田白田遺跡	0052			○	住22	○	○					丹戸施	煙	32
5	五代中原遺跡	0053				住7			住85		住19	鶴		50, 54, 56	
6	五代伊豆宮遺跡	0055				住8	住41	○	住80	住71	満地	土坑群	43, 49, 50, 53, 54, 70, 75, 85		
7	五代木戸遺跡	0055				住1	住1	○	住107	住177	満地	鐵石・鍛冶	43, 44, 55, 58		
8	五代竹花遺跡	0055			○	住3	○	○	住9	住26	満地	傳雷鉄	43, 55		
9	五代深谷遺跡	0055			○	住10	住13		住44	満地	土坑群	44, 50, 58, 82			
10	五代山田遺跡	0055				住3	住6		住1	住2	満地	鐵石	56		
11	五代妙留遺跡群	0055	○	○	○	○	住3	○	○	住8	住16	水田地	鍛冶・道	80, 81	
12	稚峯遺跡	0055							住11	住65			三彩	4	
13	御座台豪遺跡	0060				○				住65				47	
14	上島武内遺跡	0074	○	○	○	○	○	○		住22	鶴	解説	79, 81		
15	新田原大塙	0076								1系				84	
16	堆頂上遺跡	0079	○	○		○	○		住6	住34	水田	遺族	71, 76		
17	龜甲形圓錐古墳	0080								1系				84	
18	亀巣西久保Ⅱ遺跡	0088			○	○	○	○	○	住63	満地	水田	73		
19	石間西山遺跡(女塚)	0100											女塚・水田	69, 70, 83	
20	正円寺古墳	0101								1系				84	
21	豊野遺跡	0104				○	住2		住47	1系	住30			14	
22	雲野Ⅱ遺跡	0104	○	○	○	○	○	住11	住4	○	2基	住10	印	67, 76	
23	笠田下大日遺跡	0105	○		○		住4	住9	住6	1系	住30	満地	61, 74		
24	江木下大日遺跡	0105	○			○	住3	○	○	住5	住50		鍛冶	62, 74	
25	宮田下大日Ⅲ遺跡	0105					住4	住1			住10			40	
26	笠田春田遺跡	0106	○		○	○	住1		住7	住63	船地	兼	61, 74		
27	横沢新田遺跡	0174		○	○	住26	○	○	4基	○	古墓	癡社	26		
28	平源跡遺跡	0180					住7							8	
29	堀越西一丁田遺跡	0180			○	○	○	住2					造地	33	
30	堀越茅ノ原遺跡	0180				○	住25	住5					鐵石・場所	57, 64	
31	堀越中道遺跡	0180				住17	住1	○	住4	住39	墓	遺	印・鍋	27	
32	堀越丙一松木遺跡	0182				住3				2系				24	
33	堀越丁二松木遺跡	0182	○	○	○	住8	住1			住11	○	鍛冶	34		
34	横沢山田遺跡	0182				住1				2系	住1			34	
35	横沢山田遺跡	0182				住4				2系	住1	○		34	
36	茂木・二本松遺跡	0182				住1	○						地割	34	
37	愛岐遺跡	0182					○	○					圓頭大刀	20	
38	橋尻榮崎古墳群	0182								2系				84	
39	堀越甲木B遺跡	0190	○			住~					○			86	
40	小林遺跡	0191			○	○	住6		住7	住5	満地			18	
41	山神遺跡	0191			○	○	住2		住6	住2	満地			18	
42	茂木山神Ⅱ遺跡	0191				○	住12	○	住11	住21		墨書	45		
43	天神風穴遺跡	0191				住2			住13	住31	満地	寺院地	3, 66, 87, 88		
44	天神遺跡	0191	○		○	住2	住2	○	住11	○			9, 12		
45	茂木古墳群	0198									古墓			2	
46	上ノ山遺跡	0198			○		住58	○	住7	7系	○	屋敷	鐵石	17	
47	西小路遺跡	0198			○		住13			5系	○	墓	鐵石	19	
48	福南庄遺跡A 地点	0203			○	○	住3		住1	2系	住1			23	
49	福南庄遺跡B 地点	0203				住2	住1		住18	住1				35	
50	上泉唐ノ原遺跡	0543	○	○	○	○	住17	○	○	住15				76, 77, 78, 81	
51	上泉新田塚原群	0543	○	○	○	○	住11		住1	2系	住4	道地		78, 81	
52	亀巣城上遺跡	0781	○	○	○	住6	○	○	住21	1系	○	道・屋		72, 76	
53	堀越古墳	0916								1系				84	
54	兼林寺裏遺跡	0180								住4	船地	大胡城の西側	1, 2, 11, 52		

※ I ~ V は赤城山南麓の旧石器群の5期時間 (I ~ III : ナイフ形石器文化期、IV : 條先形尖頭器文化期、V : 細石刃文化期)。

住は住居棟数、数値は軒数、○は遺物出土を示す。文献番号は26頁を参照。

III 調査の方針と経過

1 調査範囲と基本方針 (Fig. 4・5)

委託調査箇所は、大和ハウスリアルティマネジメント株式会社による店舗建設予定地のうち、前橋市教育委員会による試掘調査結果に基づき、遺構・遺物が確認された2箇所について、当初調査面積140 m²の範囲であった。

東区は10 m方形の区域内に縄文時代遺物包含層があるとされたため、20～50cmの表土層を0.25 mバックホーで掘削し、遺物包含層を人力により掘り下げて調査を行った。また、全面に2 mグリッドを設定した。北西隅を起点に順次東へ1・2・3・4・5グリッドとし、西へ折り返して順次南へ下がり、南東隅の25グリッドまでと呼称した。出土遺物は、グリッド単位で掘り下げて取り上げ調査を進めた。包含層下から石器が検出され、その周囲に調査区半分弱の半円形プランが確認されたことからJ-2号住居跡と認定した。そのため整理作業では、住居跡の直上にあたる17・18・19・20・21・22・23・24・25グリッドから出土した多量の遺物は、包含層としてではなく住居跡の覆土遺物に変更して取り扱った。西区では、8×5 mの区域を0.25 mバックホーにより表土を掘削したところ、想定されたピットと溝以外に敷石住居跡の一部が確認されたため、住居遺構の範囲を人力により約12 m²拡張して調査を進めた。その後、確認された各遺構を移植コテ等で精査し、測量・写真の記録を行った。調査終了後、0.5 mバックホー及び振動ローラーを使用して埋め戻し・転圧を行い復旧した。

図面作成は、トータルステーション・電子平板を用いて、また、オルソソフトを用いた図化も併用して測量・編集した。写真記録は、35mm判のモノクロとリバーサルフィルム及びデジタルカメラの3種類を使用して撮影し、調査区全景撮影はドローンによりデジタル撮影を行った。

整理作業のうち、土器の断面はキーエンス社製3Dスキャナーで作図し、土器の一部と石器はデジタルレーベスによって組版用図化を行った。遺物写真はデジタルカメラで撮影し、データ化記録した。

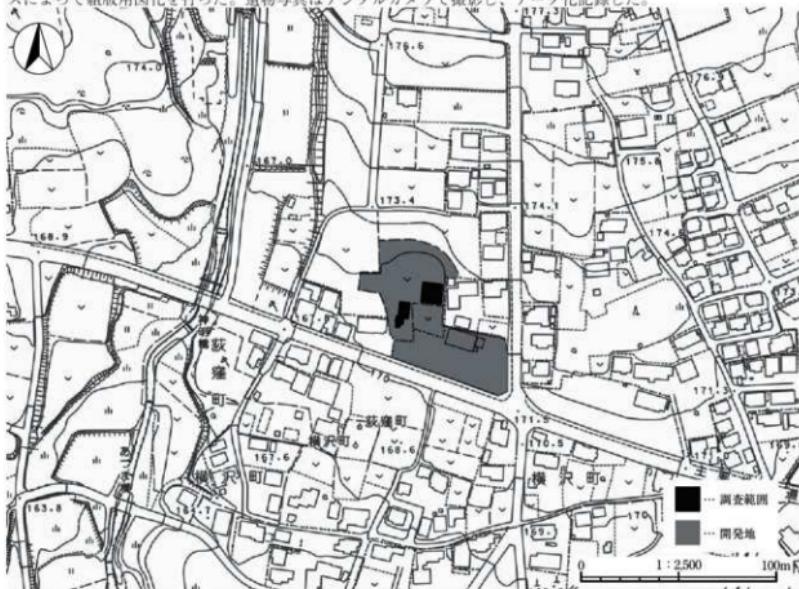


Fig. 4 調査区位置図

2 調査経過

令和4年3月1日、調査区全体の整備及び調査準備を行い、東側調査区を重機により表土掘削を開始。2日に、東西両調査区の表土を掘削した。

試掘調査によって、東区の南側では縄文時代の包蔵地があらかじめ確認されており、表土掘削時には縄文土器等が多量に出土したため、当初から2mグリッドを組みグリッドごとに遺物を取り上げながら順次調査を進めた。東区の北東から1号溝を確認し調査を行った。4日までには、西区においてD-1～5号土坑及びW-2号溝等のプランを確認した。その後、W-2号溝の下からD-6～8号土坑を検出し、調査を進めた。

4日に南西端から敷石遺構の一部が発見されたため、7日に前橋市教育委員会文化財保護課と協議を行い、人力により調査区を拡張しJ-1号住居跡として調査を続行することになった。8・9日に拡張区において敷石住居跡の全体を検出し、14日にドローンによる空中撮影を予定し、11日までに敷石住居跡を含めて遺跡全体の精査を進めた。

東区からは、多量の遺物とともに焼窯等による集石遺構及びD-9号土坑の調査を行った。さらに、14日に石窯跡が確認され、周囲を精査したところ調査区外まで広がる住居跡が検出されたため、住居跡プランを線引きして空中写真を撮影した。撮影後、グリッド調査を切り替えJ-2号住居跡として調査を行った。J-1号住居跡は、16日までに敷石上面の記録を終え、敷石をはがして柱穴や埋設土器の調査を進めた。J-2号住居跡は、炉体土器や周囲の柱穴、さらに、住居跡と重複するD-10・11号土坑の調査を進めた。

15・17日に前橋市教育委員会文化財保護課の完了検査を受けたが、天候が悪く両住居跡の残務処理が23日まで継続された。23・24日に器材等を撤去・搬出し、25日に重機により埋め戻して発掘調査を終了した。

整理等作業は、3月28日から開始し、4～5月に検出遺構の図面・写真を整理、出土遺物の分類・実測・撮影を実施した。並行して執筆・編集を行い、6月30日に報告書を発行した。

IV 基本層序

大胡石碎流台地では、通常黒土層の下には関東ローム層が厚く堆積している。I層の表土は、非常に粗い砂で軽石を混在する。II層は黒褐色の砂質土層であり、I層とIII層との間にII層がなく、洪水による氾濫褐色砂層や鉄分の沈着がみられる場所もある。III層とIV層の黒土層は、縄文時代の遺物包含層であるが、平面・断面とも土層中の遺構確認はかなり難しい。V層は、ローム漸移層で、VI層中とVII層中の軽石は、それぞれ浅間山の板鼻黄色軽石と板鼻褐色軽石であると考えられる。

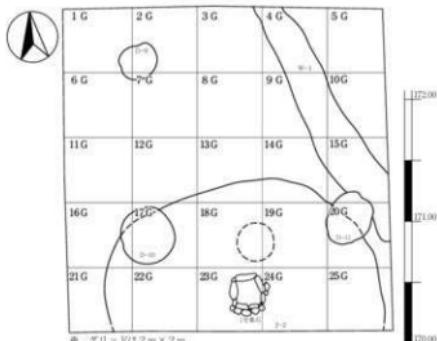


Fig. 5 東区グリッド分割図 ($S = 1/150$)



Fig. 6 基本層序 ($S = 1/40$)



Fig. 7 全体図

V 遺構と遺物

1 全体の概要 (Fig. 7)

検出された遺構は、縄文時代中期の敷石住居跡 (J-1) 1軒、竪穴住居跡 (J-2) 1軒、土坑7基、集石遺構1基及び時期不明の土坑3基、溝2条、ピット6基である。出土した遺物は、旧石器時代の細石刃核1点、縄文時代前期～後期前半の土器片と石器であり、縄文時代中期後半の土器片が圧倒的な数を占めている。

2 縄文時代住居跡

J-1 号住居跡 (Fig. 8、巻頭図版1・2)

位置 X 32・33、Y 5～7 主軸方向 N - 26° E 形状 柄鏡形、六角形、全面石敷。規模 南北 5.55 m、東西 3.65 m。面積 (10.55) m² 敷石面 左右非対称のフラット敷、全体の半数以上は輝石安山岩の割石で約1/3は円礫、最大は 55 × 55 cm。炉の奥部は小礫を丁寧に間詰、敷石周縁部に中礫を並べる。張出 長さ 22 m 幅 0.7 m、ほぼ中央に全面磨りの石英閃緑岩の框石（かまちいし）56 × 28 cm を置く、框石の南は 8 cm 段下がありその先は緩傾斜、框石西に自然礫を立てて。重複 W-2 と重複。新旧関係は本遺構→W-2。炉 石開外側 75 × 68 cm 石開内側 47 × 46 cm 敷石からの深さ 40 cm、東の炉石は抜け（攪乱）、炉石の内側を破砕、炉内部はきれいに清掃、掘方 77 × 75 × 38 cm。埋設土器 張出の連結部と先端部に 2 基、1 は口縁部から底部まで張出連結部にありピット径 50 cm 深さ 35 cm で対ピットと重複、2 は上半部を欠損し底部まで張出先端部にあ

りピット径42cm深さ20cm、1・2とも建柱後に正位埋設してから石敷。 還磯 北西から西壁に沿って幅約15cmの範囲に小跡が散らばる。敷石面から約10cm浮く、また西側の敷石面上に礫8石を置く。 柱穴 柱穴掘削→建柱→石敷の順、六角形の各頂点のP 1～P 3は主柱、埋設土器1脇のP 4・5は対ピット、框石東西のP 6・7は入口ピット、P 4～P 7はU字状につながる、P 1：63×58×46cm、P 2：(170×110×84cm、別土坑か)、P 3：80×65×46cm、P 4：(75×60×58cm、P 5、埋設土器1と重複)、P 5：(80×75×44cm、P 4、埋設土器1と重複)、P 6：(120×不明×59cm、別土坑か)、P 7：(60)×47×65cm。 出土遺物 埋設土器1・2、敷石の間詰として土器片と石器を数点利用(3・4・21)、環縁の下に石棒・石皿片(22・23・24)、ほとんど敷石面から浮いた状態で出土、土器655点、14,914g(中期後半95%うちほとんど加曾利E IV式)、石器74点(うち製品31%)。 時期 加曾利E IV期。

J-2号住居跡 (Fig. 9, PL. 1)

位置 X 36～38、Y 3・4 形状 楕円形、南半は調査区外、プラン不明瞭。 規模 南北(4.65)m、東西8.55m。 面積 (32.47)m² 床面 フラットで硬化面なし、北側に焼土あり。 重複 D-10・11、1号集石と重複。本遺構→D-10・11→1号集石。 炉 石窓外側128×122cm石窓内側72×71cm深さ27cm、北縁に長さ66cmの石を横位に立て南縁は石を2列に並べる、炉中央に51×46×14cmの穴を掘り胴上部のみの炉体土器を埋設、灰等はきれいに清掃、炉穴137×124×36cm。 柱穴 8本主柱穴(うちP 1・P 3・P 4・P 6・P 7)、P 1：(60)×56×46cm、P 2：78×79×38cm、P 3：62×65×42cm、P 4：58×37×48cm、P 5：56×52×54cm、P 6：73×44×24cm、P 7：67×61×44cm。 出土遺物 炉体土器(1)は被熱で口縁部脆い、炉石の一部に凹石や多孔石(30・31・36)利用、遺物包含層中の17～25グリッド出土遺物をJ-2覆土遺物とする、土器3902点、62,593g(中期後半90%うちほとんど加曾利E III式)、石器373点(うち製品29%)。 時期 加曾利E III期。

3 土坑・集石遺構・ピット・溝 (Fig.10・11, PL. 1・2)

Tab. 2 土坑・集石遺構・ピット・溝計測表(D-5は欠番)

遺構名	位置	長軸・短軸・深さ (cm)	平面形状	断面形状	出土土器	出土石器	重複	備考
D-1	X 32・33、Y 4	94×90×95	円形	深いフラスコ状	18点、439g 中腹削平83%	7点、製品14%	P-4より古	
D-2	X 32、Y 4・5	68×60×16	円形	浅い台形状	24点、784g 中腹削平100%	1点	D-3、P-6より古	
D-3	X 32、Y 4	68×57×23	楕円形	浅い楕状	1点、45g	1点	D-2より新	
D-4	X 32、Y 4	92×52×22	長円形	浅い台形状	49点、905g 中腹削平61%	-	P-3より古	上面に遺物集中
D-6	X 33、Y 4	(171×126×34)	二つの円形	浅い・溝巻楕状	84点、3048g 中腹削平94%	35点、製品25%	-	W-2の縮穴、遺物は厚成、底に砂質層
D-7	X 32・33、Y 4・5	(269×228×136)	円形	深いフラスコ状	436点、1411g 中腹削平96%	54点、製品30%	D-8より新	W-2の縮穴、遺物は厚成、底に砂質層
D-8	X 32・33、Y 5	(273×212×92)	円形	深い溝巻階段状	36点、1517g 中腹削平97%	5点、製品80%	D-7より古	W-2の縮穴、遺物は厚成、底に砂質層
D-9	X 36・37、Y 1・2	121×106×84	円形	深い台形	52点、2277g 中腹削平88%	10点、製品50%	-	20～30cm大の縮穴
D-10	X 36・37、Y 3	174×163×38	円形	浅い楕状	239点、5981g 中腹削平96%	19点、製品32%	J-2より新	遺物多量
D-11	X 38、Y 3	167×136×120	楕円形	深いフラスコ状	19点、806g 中腹削平63%	3点、製品33%	J-2より新	
集石遺構	X 37、Y 3	(118×114×22)	円形	浅い楕状	54点、1040g 中腹削平66%	9点、製品30%	J-2より新	
ピット	P-1：X 32、Y 4、33×27×47cm、平面楕円形、断面U字形。 P-2：X 32、Y 4、49×41×44cm、平面楕円形、断面台形状。 P-3：X 32、Y 4、44×40×79cm、平面円形、断面浅いU字形。 D-4より新。 P-4：X 32、Y 4、30×25×60cm、平面円形、断面浅いV台形状。 D-1より新。 P-5：X 33、Y 4、58×49×68cm、平面楕円形、断面浅いV台形状。 W-2より新。 P-6：X 32、Y 5、26×21×66cm、平面円形、断面浅いU字形。 D-2より新。							
W-1	位置 X 37・38、Y 1～3。 状況 北東は調査区外へ、縁や中に平行しながら南北。勾配3.2%。 主軸方向 N-3°～32°-W。 幅標 長S (973)cm、上幅174～142cm、下幅63～37cm、深幅7～15cm、底幅35cm。 断面 圆錐形、断面浅い三角形状。 底部に下潜せられた砂層と遺物が確認。大きさ30～60cm幅S 10～30cmの四形ピットが3孔あり砂層と遺物がまとまっていることから洪水時にできた軽石と考えられる。 重複 D-11号土坑より新。 出土遺物 瓦文土器片308点、石器77点。 ほとんどは中期後半で名号付が数点。							
W-2	位置 X 32・33、Y 4～6。 状況 北と南は調査区外へ、縁や中に平行しながら南北。勾配7.2%。 主軸方向 N-3°～12°-E。 幅標 長S (825)cm、上幅215～103cm、下幅63～29cm、深幅7～37cm(土底底高まで15cm)。 形状 断面圓錐形、底はV字形で土坑D-6～8号土坑は本溪の洪水時の縮穴と考えられ、底部が砂を含むようになり、埋没した砂層と合むと思われる底層が発見。 重複 J-1号土坑より新。 出土遺物 瓦文土器片339点、石器25点(D-6～8号土坑と合算)、土器895点。 石器139点)。 早期後半を主に中期中盤も含まれるが土坑から名号付も出土。 時期 不明。							

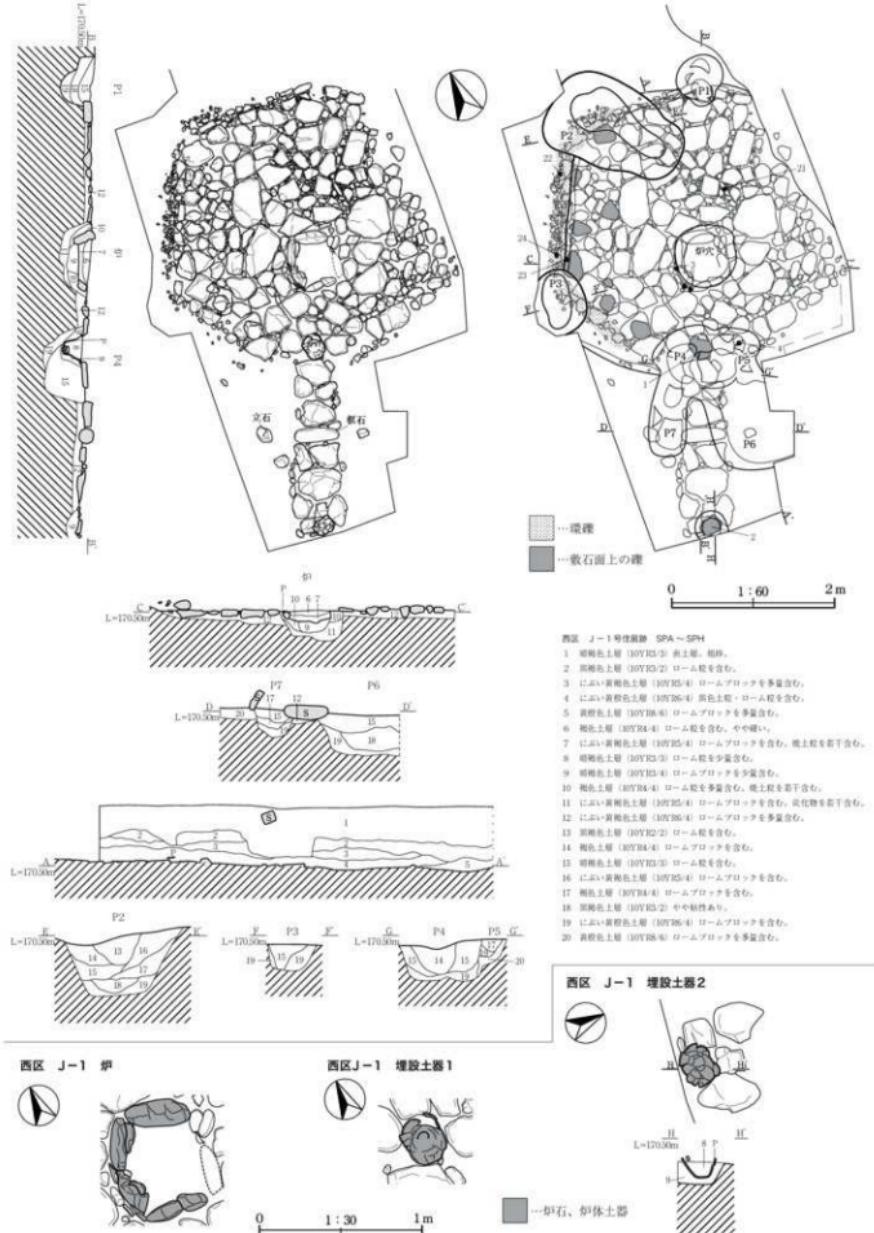
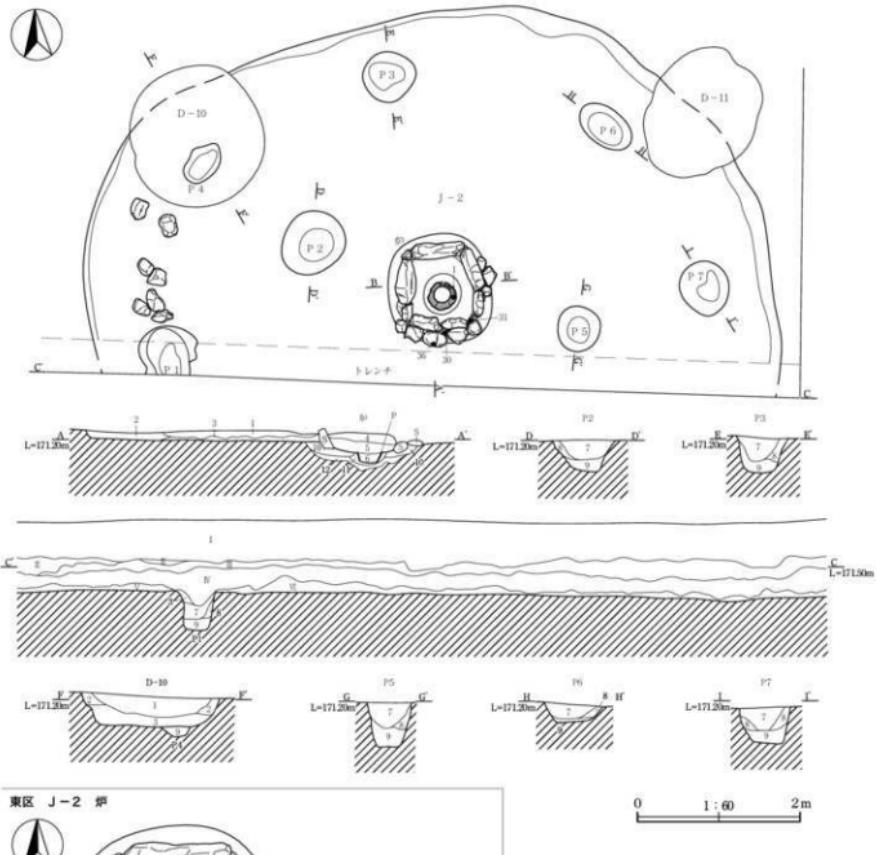


Fig. 8 J-1号住居跡

東区 J-2



東区 J-2 炉

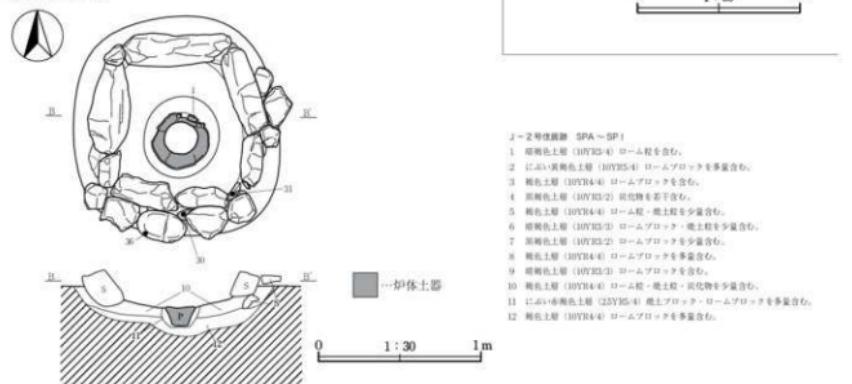
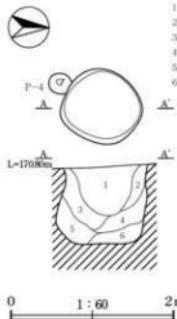


Fig. 9 J-2号居住跡

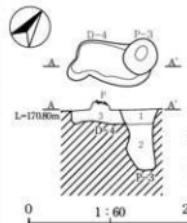
西区 D-1



西区 D-1号土坑 SPA

- 1 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム粒を多量含む。
- 2 にひい黒褐色土層 (10YR3/3) ロームブロックを少量含む。
- 3 黒褐色土層 (10YR3/3) ロームブロックを含む。やや軟らかい。
- 4 黒褐色土層 (10YR4) ロームブロック・土部を少量含む。
- 5 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム粒を多量含む。
- 6 にひい黒褐色土層 (10YR3/3) ロームブロック・小塊・土部を含む。

西区 D-4, P-3



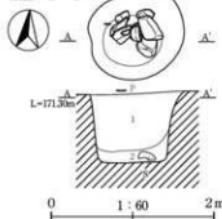
西区 D-4号土坑 SPA

- 1 黒褐色土層 (10YR3/4) ローム粒を含む。
- 2 黒褐色土層 (10YR3/4) ローム粒を含む。
- 3 黑褐色土層 (10YR3/4) ロームブロックを少量含む。

西区 D-2～3号土坑 SPA

- 1 黒褐色土層 (10YR3/3) ロームブロックを含む。
- 2 黑褐色土層 (10YR3/2) ローム粒・土部を含む。

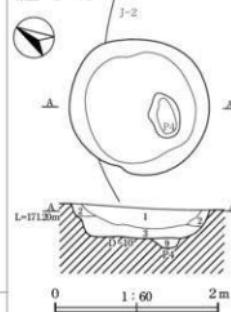
東区 D-9



東区 D-9号土坑 SPA

- 1 黒褐色土層 (10YR3/4) シート状のロームブロックを含む。ややしまる。
- 2 黑褐色土層 (10YR3/4) シート状のロームブロックを少量含む。やや軟らかい。

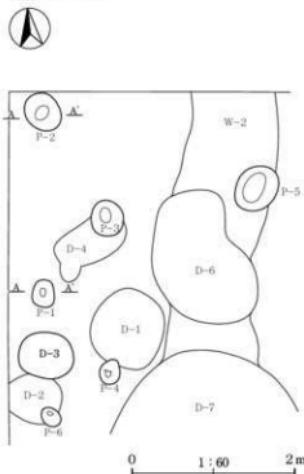
東区 D-10



東区 D-10号土坑 SPA

- 1 黒褐色土層 (10YR4/4) ローム粒を含む。
- 2 にひい黒褐色土層 (10YR3/4) ロームブロックを多量含む。
- 3 黑褐色土層 (10YR3/4) ローム粒を含む。
- 4 黑褐色土層 (10YR3/4) ロームブロックを少量含む。

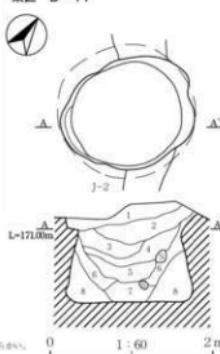
西区 P-1～6



東区 D-11号土坑 SPA

- 1 黒褐色土層 (10YR3/2) ロームブロックを少量含む。
- 2 にひい黒褐色土層 (10YR3/3) ロームブロックを多量含む。
- 3 黑褐色土層 (10YR3/2) ローム粒を含む。
- 4 黑褐色土層 (10YR3/4) ロームブロックを多量含む。
- 5 黑褐色土層 (10YR3/2) ローム粒を含む。
- 6 黑褐色土層 (10YR3/4) ローム粒を多量含む。
- 7 にひい黒褐色土層 (10YR3/4) ロームブロックを多量含む。
- 8 黑褐色土層 (10YR3/4) ロームブロックを少量含む。やや軟らかい。

東区 D-11



西区 P-1号ピット SPA

- 1 黑褐色土層 (10YR3/2) ローム粒・砂粒を含む。

西区 P-2号ピット SPA

- 1 黑褐色土層 (10YR3/4) ローム粒・砂粒を含む。

東区 集石構造

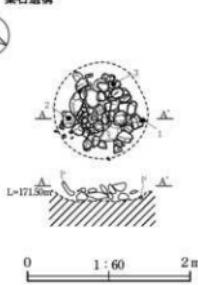
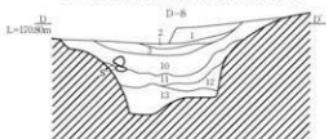
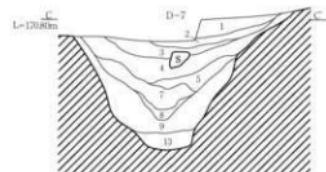
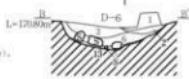
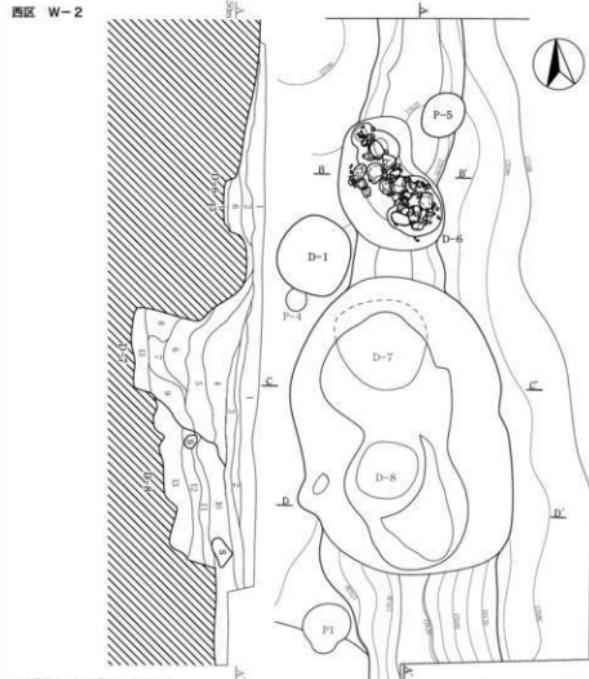
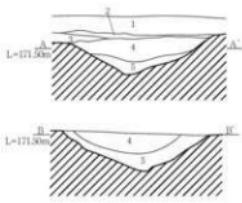
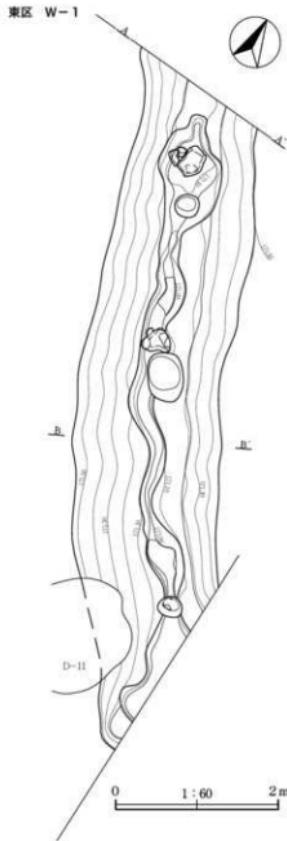


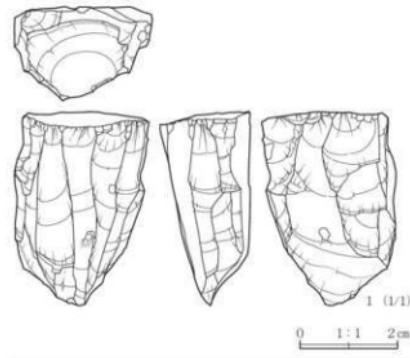
Fig.10 D-1～4・9～11号土坑、P-1～6号ピット、集石構造



- W-1号溝 SPA-D
- 褐色化土層 (10YR3/3) 黄土層, 砂鉢。
 - 褐色化色帶 (10YR3/2) 洪水層。
 - 褐色化土層 (10YR3/1) 洪水層。
 - にふい・褐色化土層 (10YR3/4) ローム土を多く含む, Hr-TP を微量含む。
 - 褐色化土層 (10YR3/3) ロームブロックを含む, 漂流水の一部に褐色化色帶層。

Fig.11 W-1・2号溝、D-6～8号土坑

旧石器



J-1

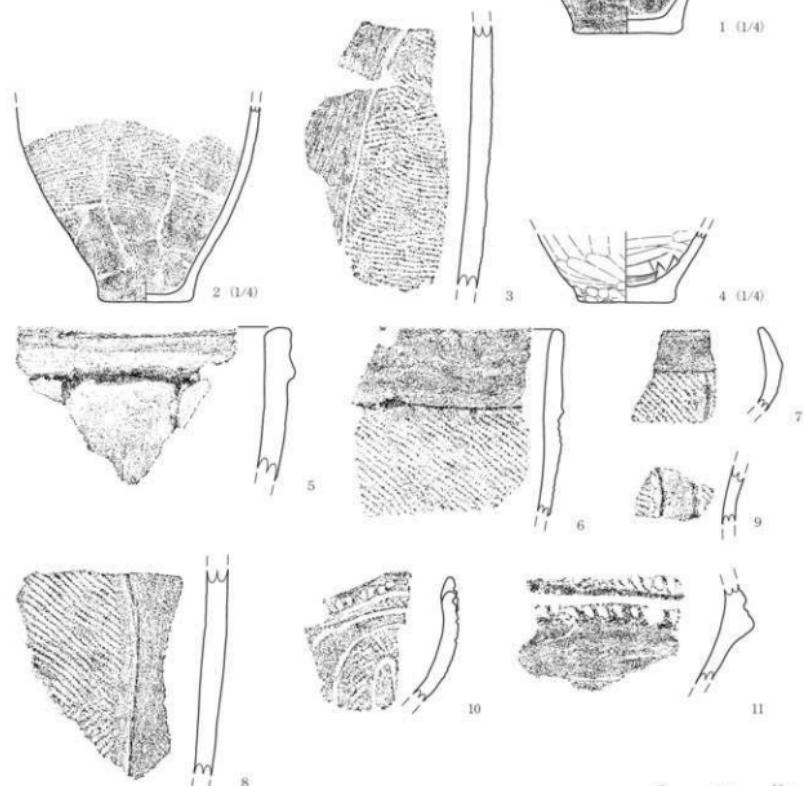
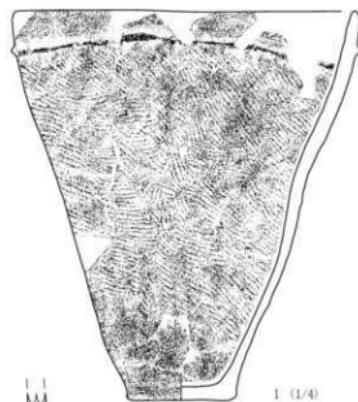
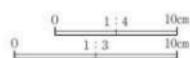
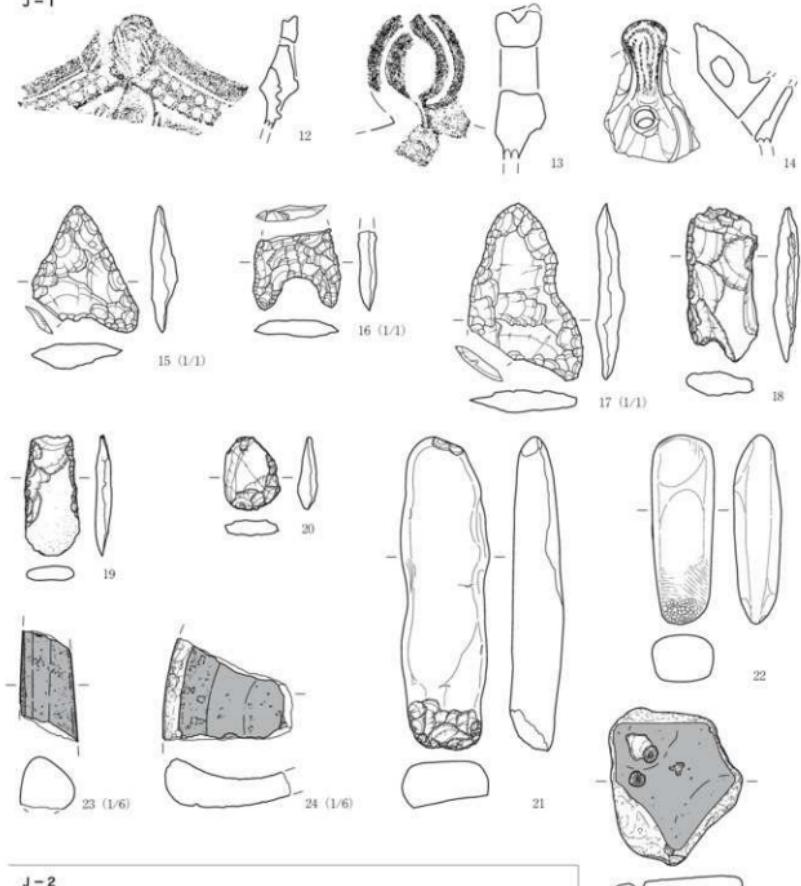


Fig.12 旧石器、J-1号住居跡出土遺物



J - 1



J - 2

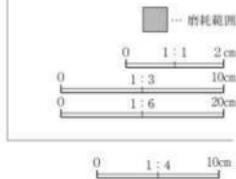
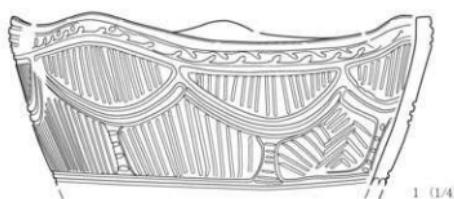


Fig.13 J - 1 · 2号居跡出土遺物

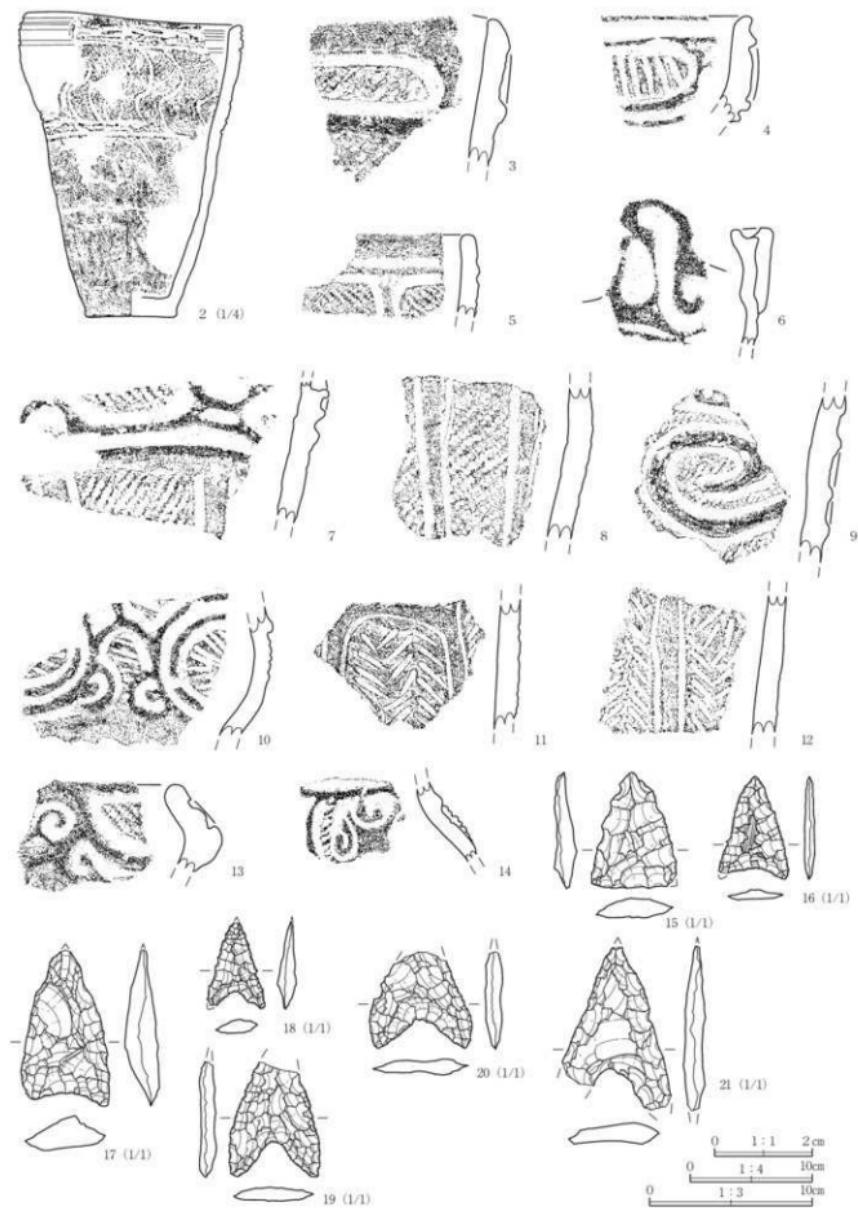


Fig.14 J - 2 号住居跡出土遺物

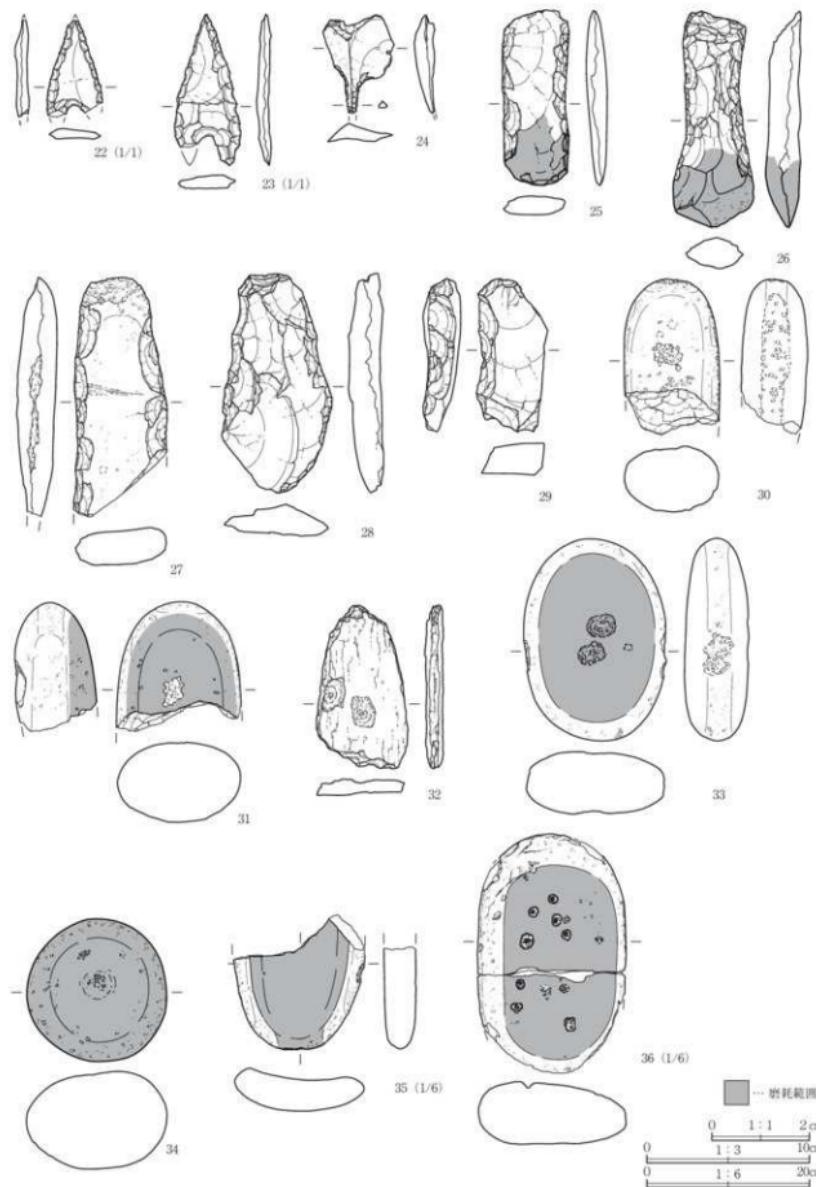


Fig.15 J - 2号住居跡出土遺物

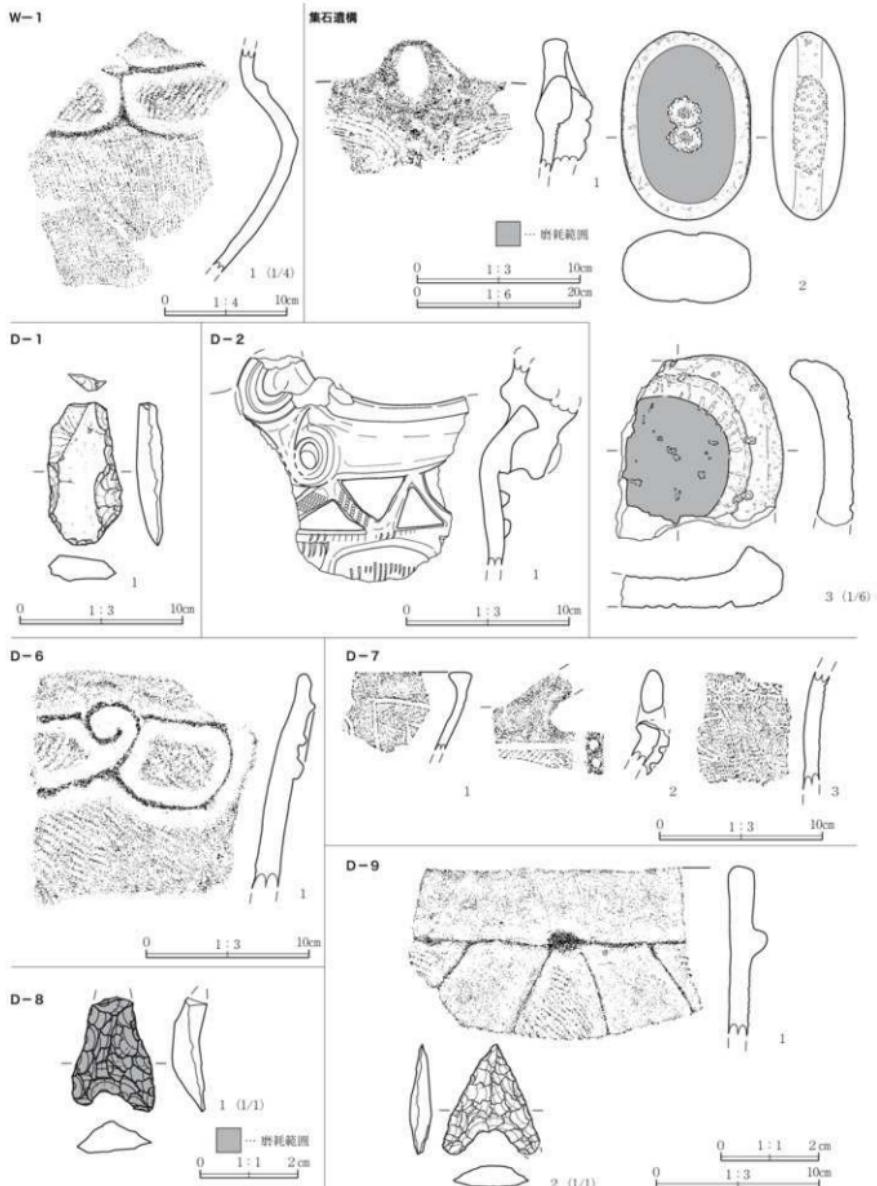


Fig.16 W-1号溝、集石造構、D-1・2・6～9号土坑出土遺物

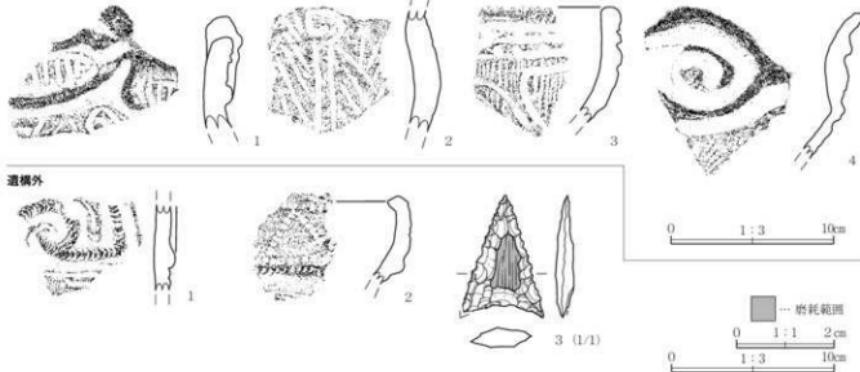


Fig.17 D-10号坑、遺構外出土遺物

Tab. 3 横沢柴崎遺跡出土遺物観察表

旧石器

No.	出土位置	種類、器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	器形、成・型態、文様等の特徴	現存状況・備考
1	D-10号坑	石器 磨石刃核	39	27	1.8	21.5	黒色頁岩	直角四辺形の横状石核(長さ30cm以上あり、2.5cm以下4箇)。幅約7~9mmの細長い骨片面を有す。中央に通す手取穴孔。先端は直角に2枚の斜面を持つ。側面は磨耗する。	完存。

J-1

No.	出土位置	種類、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	材質	外見的特徴	器形、成・型態、文様等の特徴	現存状況・備考
1	埋設土器1	縄文 陶器	26.0	8.9	32.0	黒粘土 白粘土	堅密な縦筋、口部は直角の横状石核に4段の粗状突起。深なし縫合部を有す。斜めに施す。側面は自然剥離。	口縫合一側面。 側面斜面剥離。	
2	埋設土器2	縄文 陶器	-	29	-	黒粘土 白粘土	側面は縫合部を横状に施す。	側面一側面。 側面斜面剥離。	
3	Nax. 2	縄文 陶器	-	-	-	黒粘土 白粘土	側面は縫合部を横状に施す。	側面斜面剥離。	
4	Nax. 3	縄文 陶器	-	82	-	黒粘土 白粘土	側面は縫合部を横状に施す。側面外縁もナメ。	側面。 側面斜面剥離。	
5	覆土	縄文 陶器	-	-	-	黒粘土 白粘土	側面は縫合部を横状に施す。縫合部ナメ。	側面。 側面斜面剥離。	
6	覆土	縄文 陶器	-	-	-	黒粘土 白粘土	側面は縫合部を横状に施す。縫合部ナメ。	側面。 側面斜面剥離。	
7	覆土	縄文 陶器	-	-	-	黒粘土 白粘土	側面は縫合部を横状に施す。	側面。 側面斜面剥離。	
8	覆土	縄文 陶器	-	-	-	黒粘土 白粘土	側面は縫合部を横状に施す。縫合部ナメ。	側面斜面剥離。	
9	覆土	縄文 陶器	-	-	-	黒粘土 白粘土	側面は縫合部を横状に施す。縫合部ナメ。	側面。 側面斜面剥離。	
10	覆土	縄文 陶器	-	-	-	黒粘土 白粘土	側面は縫合部を横状に施す。縫合部ナメ。	側面。 側面斜面剥離。	
11	覆土	縄文 陶器	-	-	-	黒粘土 白粘土	側面は縫合部を横状に施す。縫合部ナメ。	側面。 側面斜面剥離。	
12	覆土	縄文 陶器	-	-	-	黒粘土 白粘土	側面は縫合部を横状に施す。縫合部ナメ。	側面。 側面斜面剥離。	
13	覆土	縄文 陶器	-	-	-	黒粘土 白粘土	側面は縫合部を横状に施す。縫合部ナメ。	側面。 側面斜面剥離。	
14	覆土	縄文 陶器	-	-	-	黒粘土 白粘土	側面は縫合部を横状に施す。縫合部ナメ。	側面。 側面斜面剥離。	
No.	出土位置	種類、器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	器形、成・型態、文様等の特徴	現存状況・備考
15	覆土	石器 磨石刃核	26	(22)	8.5	1.9	黒色安山岩	直・曲面共に側面に微細な凹溝加工。基部は直角一挟み。	左側面欠損。
16	覆土	石器 四角形石核	18.0	1.7	0.8	黒墨岩	直角四辺形。側面に微細な凹溝加工。基部の扱いは直い。	左側面欠損。	
17	覆土	石器 四角形石核	37	(23)	0.6	2.8	黒色安山岩	直・曲面共に側面に微細な凹溝加工。基部は直角一挟み。	左側面欠損。
18	覆土	石器 打製石斧	(85)	(43)	1.5	20.2	黒色安山岩	直角四辺形。側面は直角一挟み。先端は丸みを帯びる。側面は斜面剥離で凹溝加工。	右側面・側面斜面剥離。 右側面欠損。
19	覆土	石器 研磨石器	74	3.3	1.0	31.3	黒色頁岩	直角四辺形。側面は直角一挟み。側面斜面剥離で凹溝加工。側面は斜面剥離で凹溝加工。	左側面欠損。
20	覆土	石器 磨石刃器	45	3.4	1.3	18.0	チャート	直・曲面共に側面に微細な凹溝加工。側面斜面剥離で凹溝加工。先端は直角一挟み。側面は斜面剥離で凹溝加工。	左側面欠損。
21	Nax. 4	石器 研磨石器	192	5.4	3.2	691.9	黒色頁岩	側面は直角一挟み。側面斜面剥離で凹溝加工。	側面斜面剥離。
22	Nax. 5	石器 槌状石器	116	3.8	2.9	232.7	黒色頁岩	側面は部分的に削り落す。側面斜面剥離で凹溝加工。	側面斜面剥離。
23	Nax. 7	石器 石斧	(337)	(7.1)	(6.5)	902.8	碧玉石片岩	石斧全体が側面削り落す。側面斜面剥離で凹溝加工。	側面・側面斜面剥離。
24	Nax. 6	石器 石器	(326)	(16.1)	(5.9)	1146.7	輝石安山岩	表面は凹溝加工で側面削り落す。側面斜面剥離で凹溝加工。	側面斜面剥離。
25	覆土	石器 多孔石	194	16.3	5.8	2061.0	角閃石安山岩	表面は凹溝加工で側面削り落す。側面斜面剥離で凹溝加工。	側面斜面剥離。

J-2

No	出土位置	種別、埋蔵	口径(cm)	周囲(cm)	高さ(cm)	土質	外色・内色	形態、成・形態、文様等の特徴	現状状況・備考
1	No. 2 伊弉	碗文 瓢体	335	—	—	黄土 黑粘土	白黄色 明灰褐色	4重筋の模様付。3つの横筋が直角の上に交叉する。9重筋の3本は北面(裏面)、4の側面は南面の下に交叉して突起。底文は縦筋の状態を表現(底筋は分離)。	口縁付一重筋。側面付E型。削出式切削。
2	19グリッド	碗文 瓢体	180	76	255	砂粒多 白粘土	黑褐色～深褐色 に云々、明灰褐色	口部底に4条の凸筋。側面に2条の凸筋。両端部付近に斜状の垂下を有する。	口縁付一重筋。側面付E型。
3	22グリッド	碗文 瓢体	—	—	—	砂粒 多白粘土	明灰褐色 に云々、明灰褐色	口部底に2筋でなぞった隆起で円形凹面。足し碗文を口側に内折れして地丸に施す。	口縁付。加賀利E型。
4	23グリッド	碗文 瓢体	—	—	—	黑粘土 白粘土	明灰褐色 黒褐色	口部底に隆起と沈痕で椭円形凹面。底付の粗面を充填。	口縁付。加賀利E型。
5	18グリッド	碗文 瓢体	—	—	—	黑粘土 白粘土	黑褐色 に云々、明灰褐色	2条の凸筋を有する2本の脚の垂下を。R.L.碗文を口側に斜めに施す。	口縁付。加賀利E型。
6	22グリッド	碗文 瓢体	—	—	—	黑粘土 白粘土 多	に云々、明灰褐色 白粘土	大きな突起上から斜めの溝状の太い溝。斜め下に隣接部。	口縁付(切削)。加賀利E型。
7	22グリッド	碗文 瓢体	—	—	—	砂粒多 白粘土	明灰褐色 白粘土	口部底に2筋の隆起。後縁の舟形凹面内にR.L.碗文を充填。側部に2本の溝状の沈痕を有する。また、側部付近に施す。	脚上付。加賀利E型。舟形凹面。
8	22グリッド	碗文 瓢体	—	—	—	黑粘土 多白粘土	明灰褐色 白粘土	2条の凸筋を垂下。R.L.碗文を斜めに施す。	脚上付。加賀利E型。
9	23グリッド	碗文 瓢体	—	—	—	黑粘土 白粘土	に云々、明灰褐色 白粘土	側面の底付近に施す。側面に2条の溝状の太い溝。R.L.碗文を斜めに施す。	脚上付。加賀利E型。
10	19グリッド	碗文 瓢体	—	—	—	黑粘土 白粘土	に云々、明灰褐色 白粘土	側面の底付近に施す。側面に2条の溝状の太い溝。R.L.碗文を斜めに施す。	脚上付。加賀利E型。
11	18グリッド	碗文 瓢体	—	—	—	黑粘土 白粘土	に云々、明灰褐色 白粘土	側面の底付近に施す。側面に2条の溝状の太い溝。R.L.碗文を斜めに施す。	脚上付。加賀利E型。
12	25グリッド	碗文 瓢体	—	—	—	黑粘土	に云々、明灰褐色 黒褐色	2条の凸筋を垂下。足付の粗面を充填。	脚上付。加賀利E型。
13	23グリッド	碗文 瓢体	—	—	—	黑粘土 白粘土	に云々、明灰褐色 白粘土	口部内側、底付近による渋痕と舟形凹面。R.L.碗文を口側に施す。	口縁付。加賀利E型。
14	23グリッド	碗文 瓢小	—	—	—	砂粒粘	明灰褐色 白粘土	側面の底付近から足の垂下を。少渋痕を斜め上左右に施す。側面に2筋の溝状の凹面に施す。	脚上付。加賀利E型。
No	出土位置	種別、埋蔵	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	形態、成・形態、文様等の特徴	現状状況・備考
15	23グリッド	行灯 石器	24	(175)	0.8	1.1	黑色安山岩	直・斜面共に研磨面により全面加工を施す。左右脚部は斜い脚曲線を有する。	右脚部端欠損。
16	19グリッド	行灯 石器	21	15	0.2	0.4	黑耀石	直・斜面共に研磨面により丁寧に磨きを施す。中央部に鉄跡。表面は浅い抉り。	左脚部端欠損。
17	23グリッド	行灯 石器	—	(11)	1.8	0.7	チャート	直・斜面共に磨きを施す。斜面は研磨面。底付は斜めに施す。	左脚部端欠損。
18	17グリッド	行灯 石器	(18)	1.2	0.3	0.4	黑耀石	直・斜面共に研磨面により全面加工を施す。下方に渋痕を斜めに施す。2本の脚部に斜めに施す。	脚上付。左脚部端欠損。
19	11グリッド	行灯 石器	(230)	19	0.35	1.3	黑色安山岩	直・斜面共に研磨面で施す。斜面・脚部は渋痕を施す。底部の抉りはやや浅い。	左脚部端欠損。
20	27グリッド	行灯 石器	(26)	21	0.4	1.2	チャート	直・斜面共に研磨面で施す。斜面・脚部は渋痕を施す。底部は深く抉りや斜面の抉りを作成す。	左脚部端欠損。
21	19グリッド	行灯 石器	(33)	(22)	0.45	2.5	黑色碧玉	直・斜面共に研磨面の施す所である。斜面は研磨面。底付は斜めに施す。左脚部端欠損。	左脚部端欠損。
22	8グリッド	石器 行灯 砂器	(26)	11	0.25	0.5	黑色碧玉	横棒状工具を用いて。左脚部端及び底部に渋痕を斜めに施す。斜面の抉りは斜めに施す。	左脚部端欠損。
23	17グリッド	石器 行灯 砂器	31	14	0.3	1.0	黑色碧玉	直・斜面共に研磨面を施す。脚部は斜めに施す。	左脚部端欠損。
24	25グリッド	石器 研磨	(6.1)	4.1	1.3	16.6	黑色碧玉	直面に白研磨面と斜面研磨面。下部半面に研磨面を施す。	左脚部端欠損。
25	19グリッド	石器 研磨	108	41	1.25	82.6	黑色碧玉	直面・斜面共に白色を有する研磨面を斜めに施す。斜面は研磨面を施す。	左脚部端欠損。
26	17グリッド	石器 研磨	132	5.0	2.2	146.6	ホルム・フェニキア	直面・斜面共に研磨面を施す。斜面は研磨面を施す。左脚部端及び底部に渋痕を斜めに施す。	左脚部端欠損。
27	17グリッド	石器 行灯 研磨	(147)	5.8	2.4	250.3	砂岩	直面・斜面共に研磨面を施す。左脚部端及び底部に渋痕を斜めに施す。斜面の抉りは斜めに施す。	左脚部端欠損。
28	24グリッド	石器 打葉石器	133	6.8	2.15	192.4	黑色碧玉	大刀で直面の研磨面を斜めに施す。斜面は研磨面を施す。	左脚部端欠損。
29	17グリッド	石器	9.4	4.3	2.3	109.7	黑色碧玉	直面・斜面共に研磨面を施す。斜面は研磨面を施す。	左脚部端欠損。
30	No. 3	石器 西石	(9.6)	5.9	6.1	285.3	青石	直面・斜面共にやや深い斜面の邊縫に2つの凹み。左右脚部に浅く斜面を作成す。	下半脚欠損。
31	No. 4	石器 西石	(7.9)	7.7	5.0	381.0	輝石安山岩	直面・斜面共に研磨面を施す。斜面には渋痕による抉りを作成す。	下半脚欠損。
32	17グリッド	石器 西石	9.1	5.6	1.1	89.7	輝斑片岩	直面・斜面共に研磨面を施す。	直面・斜面。
33	19グリッド	石器 西石	125	8.7	3.9	695.0	輝閃石安山岩	直面・斜面共に研磨面を施す。斜面には渋痕による抉りを作成す。	左脚部端欠損。
34	17グリッド	石器 西石	87	8.7	6.0	559.1	輝石安山岩	全表面に渋痕による抉りを作成す。直面・斜面共に研磨面を施す。	左脚部端欠損。
35	21グリッド	石器 西石	(166)	(361)	3.0	1251.0	多孔質安山岩	直面の粗面の粗面は直角に斜面を有して凹み。粗孔則の端部は直角やL字脚で斜面を作成す。	下半脚残存。
36	No. 1	石器 多孔石	294	18.3	7.7	6220.0	輝石安山岩	直面は粗面でR.L.碗文(縦3.3cm×幅2.8cm)を有する。斜面は直角にR.L.碗文(縦3.3cm×幅2.8cm)を有する。直面・斜面共に研磨面を施す。	左脚部端欠損。

W-1

No	出土位置	種別、埋蔵	口径(cm)	周囲(cm)	高さ(cm)	土質	外色・内色	形態、成・形態、文様等の特徴	現状状況・備考
1	寶上	碗文 瓢体	—	—	—	黑粘土 多白粘土	に云々、明灰褐色 に云々、明灰褐色	側面と底に側内付の盛り、側内付の盛りは側外によう逆らか。側下部は研磨面を施す。	脚上付E型。加賀利E型。

集石遺構

No	出土位置	種別、埋蔵	口径(cm)	周囲(cm)	高さ(cm)	土質	外色・内色	形態、成・形態、文様等の特徴	現状状況・備考
1	No. 1	碗文 瓢体	—	—	—	砂粒多 白粘土	に云々、明灰褐色 に云々、明灰褐色	山形的に側内付の盛り、側内付の盛りは側外によう逆らか。側下部は研磨面を施す。	口縁付E型。加賀利E型。
2	No. 3	石器 研磨	11.5	8.0	4.5	6022	辉长石安山岩	直面・斜面共に研磨面を有する。直面・斜面共に研磨面を施す。	左脚部端欠損。
3	No. 2	石器 研磨	(228)	(255)	8.1	2016.0	多孔質安山岩	直面の粗面の粗面は直角に斜面を有する。直面・斜面共に研磨面を施す。	1/4脚存。

D - 1

No	出土位置	種別、形態	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	重量(g)	材質	形状、成・整形、文様等の特徴		現存状況・備考
								内側面	外側面	
1	覆土	石器 打製石斧 刮削器	8.7	4.6	1.6	71.5	灰白色安山岩	表面に広く自然削出された縦溝状の表面。両・表面に左右斜めにやや細い刻溝を施す。表面は左側面・上部は即摩削。	安値。	

D - 2

No	出土位置	種別、形態	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	重量(g)	材質	形状、成・整形、文様等の特徴		現存状況・備考
								内側面	外側面	
1	36a.1	陶文 逆鉢	-	-	-	仰軽量 白粘土	赤褐色 灰白色	環状の凸状を發達させた丸み足の底手は左足分が下傾。上側底板に豊富に朱し褐色文を施した圓筒状の腹側。底手を行けた腰溝部と底下斜面。銅鏡下手の褐色文は腹側の底手。	13回復。 中間小変化。	

D - 6

No	出土位置	種別、形態	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	重量(g)	材質	形状、成・整形、文様等の特徴		現存状況・備考
								内側面	外側面	
1	覆土	陶文 逆鉢	-	-	-	仰軽量 白粘土	灰褐色 灰白色	13回復文底手に薄緑色済。底内形成に朱文を施す。	13回復。加吉田長昌。	

D - 7

No	出土位置	種別、形態	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	重量(g)	材質	形状、成・整形、文様等の特徴		現存状況・備考
								内側面	外側面	
1	覆土	陶文 逆鉢	-	-	-	仰軽量 白粘土	灰褐色 灰白色	13回復文底手に薄緑色済。底内形成に朱文を施す。	13回復。加吉田長昌。	
2	覆土	陶文 逆鉢	-	-	-	仰軽量 白粘土	灰褐色 灰白色	13回復文底手に薄緑色済。底内形成に朱文を施す。	13回復。加吉田長昌。	
3	覆土	陶文 逆鉢	-	-	-	仰軽量 白粘土	灰褐色 灰白色	13回復文底手に薄緑色済。底内形成に朱文を施す。	13回復。加吉田長昌。	

D - 8

No	出土位置	種別、形態	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	重量(g)	材質	形状、成・整形、文様等の特徴		現存状況・備考
								内側面	外側面	
1	覆土	石器 石斧 刮削器	(24)	1.7	0.7	2.3	黑色頁岩	表面は全体に黄色調の磨擦面を有する。表面に付ける斜めの刻溝を仄め。右斜面は左側面より長い刻溝を持つ。全体に微細な削痕。	左側面欠損。	

D - 9

No	出土位置	種別、形態	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	重量(g)	材質	形状、成・整形、文様等の特徴		現存状況・備考
								内側面	外側面	
1	覆土	陶文 逆鉢	-	-	-	-	灰褐色 灰白色	13回復文底手に薄緑色済。底内形成のあるいは側面から底手を分離せん。L.R.陶文を斜めに施す。	13回復。加吉田長昌。	
No	出土位置	種別、形態	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	重量(g)	材質	形状、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考	
2	覆土	石器 石斧 刮削器	(22)	2.1	0.45	1.5	黑色頁岩	表面は丁寧な横溝を深めに施す。表面は中央に斜めの刻溝がある。底手は側面から底手を分離せん。側面は斜めに施す。	右側面欠損。	

D - 10

No	出土位置	種別、形態	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	重量(g)	材質	形状、成・整形、文様等の特徴		現存状況・備考
								内側面	外側面	
1	覆土	陶文 逆鉢	-	-	-	-	灰褐色 灰白色	底手に小溝を施した円錐の形。側面と底面にとも横筋が複数ある。底手は側面から底手を分離せん。斜めに施す。	13回復。加吉田長昌。	
2	覆土	陶文 逆鉢	-	-	-	-	灰褐色 灰白色	小溝を底手から本底手に施す。底手の横筋を施す。	側面。 加吉田長昌。1と同一。	
3	覆土	陶文 逆鉢	-	-	-	-	灰褐色 灰白色	13回復に3点の沈痕と2段の鉄突孔。左・右側文を底面に施して底北側で底区画。側面は中央に斜めの刻溝がある。底手は側面から底手を分離せん。側面は斜めに施す。	側面. 加吉田長昌。1と同一。	
4	覆土	陶文 逆鉢	-	-	-	-	灰褐色 灰白色	側面に小溝を施す。底手は側面から底手を分離せん。側面は斜めに施す。	13回復。加吉田長昌。	

遺構外

No	出土位置	種別、形態	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	重量(g)	材質	形状、成・整形、文様等の特徴		現存状況・備考
								内側面	外側面	
1	三アリッジ	陶文 逆鉢	-	-	-	-	灰褐色 灰白色	斜めに3列ある隣接する凹字を以て左右や弧形の凹部。底面に千枚竹管の平行線と表裏に施す。	斜めに3列。 表裏に平行。	
2	四アリッジ	陶文 逆鉢	-	-	-	-	灰褐色 灰白色	底面に4列ある隣接する凹字を以て左右や弧形の凹部。底面に千枚竹管の平行線と表裏に施す。	斜めに4列。 表裏に平行。	
No	出土位置	種別、形態	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	重量(g)	材質	形状、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考	
3	覆土	石器 石斧 刮削器	(24)	1.7	0.7	2.3	黒色頁岩	表面は回復により白色。表面は対摩面を広く残す。周間に加工。左右側面は側面から底手を分離せん。	左足頭部欠損。	

VI まとめ

1 旧石器時代の細石刃核について (Fig.12, Tab. 3, PL. 2)

東区の17グリッドから縄文土器に混ざって旧石器が1点出土した。これは細石刃核であり、黒色頁岩の剥片を素材とする複数剥離の単設打面をもち、矢出川技法による野岳・休場型に分類できる。

周辺遺跡の類例として、北方3kmの寺沢川上流にある横沢新屋敷遺跡からは、同様タイプの細石刃核が単独で出土していて出土状況や形態等は類似するが、石材が緑色の珪質岩である。また、北方に約4km離れた荒砥川流域にある標高280mの市之関前田遺跡からは、野岳・休場型の石核による細石刃283点が文化層としてのまとまりをもって検出されている。本遺跡出土の石核に残る細石刃の剥離面は、長さ3.0cm以上が6面、2.5cm以下が4面、幅が0.7~0.9cmあり、市之関前田遺跡出土の細石刃と同等の大きさを測る。しかし、市之関前田遺跡の石材は、削器や剥片には在地系の黒色安山岩や黒色頁岩が多く用いられているにもかかわらず、細石核及び細石刃では搬入品の黒曜石が圧倒的多数を占めている。また、湧別技法の細石器が中心である竜の口川中流域の鳥取福蔵寺遺跡（標高130m）や荒砥川下流域の頭無遺跡（標高108m）では、搬入品である硬質頁岩が主体であるが、幌加技法の細石器が中心である柏川上流域の樹形遺跡（標高415m）や寺沢川上流域の柏倉芳見沢遺跡（標高380m）では、在地系の黒色頁岩が主体的に用いられている。

今回、本遺跡でみつかった細石刃核は、県内では少数派に属する野岳・休場型のものであるが、このタイプではほとんどみられない在地系の黒色頁岩を使用していることなど、その位置づけが今後の課題である。

2 縄文時代の出土遺物について (Tab. 4・5)

今回の調査で出土した遺物は、ほとんどのものが縄文時代の土器及び石器である。

土器片の総数は7,731点125,916gを数える。その中でもかなり量の土器片が庶民化・碎片化していく型式の判別が不確かであることから全体の把握はできなかった。概要としては、縄文時代中期後半の土器片が9割以上を占めていて、数%しかしない中期前半やさらに少ない前期及び後期前半の土器片は客観的な存在である。

J-1の出土土器はほとんどが敷石面から浮いているが、中期後半の中でも加曾利EⅣ式が極めて多く、埋設土器2個体も同時期であることから加曾利EⅣ期の住居跡と考えられる。しかし、勝坂期から称名寺期・堀之内期までの土器片もわずかながら混在する。J-2は、炉体土器によって加曾利EⅢ期と考えられる。確実な床直遺物がないものの覆土中から加曾利EⅢ式の土器片を主体に出土している。土坑では、D-1・2・4から勝坂Ⅱ式の出土点数が多く、D-10から加曾利EⅢ式、D-9・11から加曾利EⅣ式、集石遺構から加曾利EⅣ～称名寺式の土器片数が他の土坑よりも多い。遺構外では、中期前半土器の出土比率が少し高めである。

石器は、全部で872点出土していて、剥片石器が838点で疊塊石器が34点であった。剥片石器のうち製品が占める割合は26%である。製品としては、石鏃17点、削器67点、楔形石器14点、そして石籠・石匙・石錐・疊器・磨製石斧が1~2点ずつのはか114点もの打製石斧が出土している。打製石斧は住居跡・各土坑・溝・遺構外など調査区のほぼ全体にみられ、特にJ-2に多いが、完形品は9%以下であり基部のみの残存が多くほとんど形態がわからない。石錐は大小様々で、形態は基部を少し抉った凹基無茎のものが多い。疊塊石器は、凹石を筆頭に磨石・石皿・多孔石などが、住居跡と集石遺構や溝などから偏ってみられ、土坑や遺構外からは出土していない。祭祀道具である石棒は、2次的な出土状況の溝を除けばJ-1からの出土に限られる。また、東区のグリッドごとの遺物については、特徴等が見受けられなかった。剥片石器の大部分を黒色頁岩と黒色安山岩、疊塊石器の大部分を輝石安山岩と角閃石安山岩の在地石材が占める中、搬入品は貴重であり、黒曜石は碎片の24点以外は石錐しかみられず、さらに、緑泥片岩・結晶片岩製の石棒はよくみかけるが、凹石への使用はとても珍しい。灰色安山岩は在地の石材であるが、打製石斧以外にはほとんど利用されていない。石皿は破片が4点のみであるが、J-1の敷石や自然疊には、表面が磨られたり敲かれた痕がついたものもみられる。

Tab. 4 遺構別石器器種組成表

遺構名	石器	打製石斧	石鎚	石耙	削器	石錐	礫器	楔形石器	磨製石斧	剥片	碎片	石皿	多孔石	凹石	磨石	敲石	石棒	棒状石	他	合計
J-1	3	3	1	-	7	-	1	2	-	30	21	1	1	-	-	-	2	2	74	
J-2	10	51	-	-	26	1	-	4	2	149	117	1	1	7	4	-	-	-	373	
D-1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	4	-	-	-	-	-	-	-	7	
D-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
D-3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
D-6	1	6	-	-	4	1	-	2	-	25	16	-	-	-	-	-	-	-	55	
D-7	-	7	-	1	5	-	-	2	-	25	13	-	-	-	-	-	-	-	1	54
D-8	1	2	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	5	
D-9	1	4	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	10	
D-10	-	4	-	-	1	-	-	1	-	9	4	-	-	-	-	-	-	-	19	
D-11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1	-	-	-	3	
集石遺構	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	2	2	2	2	-	-	-	-	9	
W-1	-	17	-	-	9	-	-	-	-	20	25	-	-	1	1	1	2	1	77	
W-2	-	2	-	-	3	-	-	2	-	10	7	-	-	-	1	-	-	-	25	
遺構外	1	15	-	-	11	-	-	1	-	35	96	-	-	-	-	-	-	-	159	
合計	17	114	1	1	67	2	1	14	2	310	309	4	4	10	7	1	4	4	872	

Tab. 5 石材別石器器種組成表

石材名	石器	打製石斧	石鎚	石耙	削器	石錐	礫器	楔形石器	磨製石斧	剥片	碎片	石皿	多孔石	凹石	磨石	敲石	石棒	棒状石	他	合計
黒色頁岩	5	60	1	1	53	2	-	7	-	218	194	-	-	-	1	-	-	1	543	
頁岩	-	7	-	-	5	1	-	-	-	5	3	-	-	-	-	-	-	-	21	
珪質頁岩	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	3	
チャート	2	-	-	-	-	-	-	3	-	4	11	-	-	-	-	-	-	-	20	
砂岩	-	9	-	-	1	-	-	1	-	12	2	-	-	1	1	1	1	1	28	
黒色砂岩	7	6	-	-	6	-	-	3	-	53	68	-	-	-	-	-	-	-	143	
灰岩砂岩	-	26	-	-	1	-	-	-	-	13	4	-	-	-	-	-	-	-	44	
灰曜岩	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	24	-	-	-	-	-	-	-	28	
ホルンブリュス	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	
粘土岩	-	3	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	5	
矽岩	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
蛇紋岩	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
練泥片岩	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	3	
結晶片岩	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	2	
安山岩	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	3	
輝石安山岩	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	2	2	4	-	-	1	11	
角閃石安山岩	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	1	-	-	-	-	-	6	
多孔質安山岩	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2	
石英閃緑岩	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	1	-	3	
珪化木	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
合計	17	114	1	1	67	2	1	14	2	310	309	4	4	10	7	1	4	4	872	

3 柄鏡形敷石住居跡について (Fig.18・19、Tab. 6)

柄鏡形敷石住居跡は、加曾利EⅢ期から加曾利BⅠ期まで関東甲信越地域に広く分布する住居形態のひとつであり、群馬県でも赤城山西南麓の開けた地域から北毛地域や西毛地域の山間部にいたるまで400例に近いものと思われる。ここでは、加曾利EⅣ期の赤城山西南麓地域における柄鏡形敷石住居跡のあり方を池田氏による集成（文献100）を参考に本遺跡の位置づけをみていく。対象資料はTab. 6の16遺跡43例である。以前から柄鏡形敷石住居跡の報告書中に「中期末から後期初頭」という時期設定されるものを多くみるが、加曾利EⅣ式と称名寺I式はある段階において共伴関係にあるということであろう。加曾利EⅣ式の時間幅とその後続型式との分類などについては力量不足のため言及せず報告書のままで取り扱い、表中に漏れてしまった遺跡もあると思われるが、簡単なまとめと課題にとどまることをご容赦願いたい。

今回取り上げた遺跡は、遺構の時期など構成内容によっていくつかのパターンに分けられる。加曾利EⅢ期の柄鏡形敷石住居跡が検出された三原田遺跡や曲沢遺跡は、広大な台地に占地した大規模な環状集落であり、加曾利EⅣ期のピークを過ぎても後期前半まで柄鏡形敷石住居跡が存続していて、同様の集落は西毛の野村遺跡・田篠中原遺跡、北毛の横壁中村遺跡など地域ごとの中核的集落となっている。また、三原田遺跡では全住居跡341例中に柄鏡形敷石住居跡は47例であったが、加曾利EⅣ期に限っては住居跡25例中に18例もの柄鏡形敷石住居跡が検出され、当時は特別な住居ではなく一般的なものであった可能性も高い。芳賀東部团地遺跡でも60例

の全住居跡中1剖だった柄鏡形敷石住居跡は、加曾利E IV期における3例はすべて柄鏡形敷石住居跡である。加曾利E IV期の住居跡13例中5例の柄鏡形敷石住居跡がある市之間前田遺跡、同様に8例中2例の堀越並木遺跡、3例中2例の西小路遺跡、5例中1例の五代山街道I遺跡、4例中1例の瀬戸ヶ原遺跡などは、加曾利E IV期以外では柄鏡形敷石住居跡が確認できない。また、大規模集落である山ノ上遺跡でも、加曾利E IV期の住居3例のうち1例しか柄鏡形敷石住居跡がなく他時期のものはみあたらない。芳賀北曲輪遺跡では、加曾利E IV期の住居1例が柄鏡形敷石住居跡であり、後期にも柄鏡形敷石住居跡が存続する。

小規模な遺跡の五代木福II遺跡では、配石遺構と報告されている石敷きの中央に炉があることから、現時点では単独で存在する柄鏡形敷石住居跡と思われる。周辺には五代伊勢宮遺跡や五代深堀遺跡などの縄文中期の大規模集落があるにも関わらず、加曾利E IV期には集落が衰退してしまっている。小室遺跡の柄鏡形敷石住居跡は、本遺跡のものと規模・形状などきわめて類似しているばかりか、隣接した加曾利E III期の竪穴住居跡の存在も同じである。双方とも広い緩傾斜台地に立地することから集落の一角であると思われ、柄鏡形敷石住居跡の単独の存在ではない。柄鏡形敷石住居跡が単独でみつかっているのは、梨の木平遺跡、乾田遺跡、水上石器時代住居跡などのように山間部にある狭小なテラス状台地といった限られたスペースに立地した遺跡である。

柄鏡形敷石住居跡は、加曾利E IV式もしくはその直後段階で途絶えてしまう荒砥前原遺跡、西小路遺跡、市之間前田遺跡、称名寺II期まで継続する三原田遺跡、芳賀北曲輪遺跡、芳賀東部团地遺跡、さらに堀之内期まで存続する曲沢遺跡、荒砥二之堀遺跡とバターン分けができる。後期になってから柄鏡形敷石住居跡が登場する八崎前中後遺跡、堤遺跡、大道遺跡、安通遺跡、上鶴ヶ谷遺跡、千網谷戸遺跡、中原遺跡、一丁田遺跡、東長岡戸井口遺跡などもあり、ひとつずつから検出される柄鏡形敷石住居跡は2~3例くらいであるが、集落数と分布範囲が拡大するものの、やがて終息に向かっていく。柄鏡形敷石住居跡の衰退時期である堀之内II期から加曾利B I期以降は、祭祀や身体装飾が色濃くなり、配石幕や石組遺構による祭祀が盛り上がりしていく。

本遺跡の柄鏡形敷石住居跡の設計について、他住居跡との共通性を加味して考えてみたい。設計にあたっては贅否あるものの両手を広げた長さ「尋（ひろ）」（160~190cm）を基準に考えた場合、半径1尋で円を描き傾斜面下側に向かって長さ1尋の張出を設けると、全長5~6m幅3.5mほどの規模になり、この時期の柄鏡形敷石住居跡の規模とおよそ合致する。円の中心から張出側へ70~80cmの大きさで石圓炉を造る。炉石は削られその内側は細かく破碎され、破片は掃除されているが、炉石はボロボロになっている。同様な破碎行為は三原田遺跡でも5例あり、芳賀東部团地遺跡、市之間前田遺跡、荒砥前原遺跡にもみられる。炉から同じ距離の位置に張出連結部のやや内側に土器を埋設する。張出はほぼ炉の幅で、連結部の両側に対ビットを設けるがひとつにつながっている。張出の中央には石棒状の樋石を置き外側の石敷きが一段下がっている。この張出の段差は小室遺跡にも同様のものがみられる。樋石の左右には、入口部のビットを設ける。張出の先端にも土器を埋設し、二つの埋設土器をもつ柄鏡形敷石住居跡は、三原田遺跡に4例あり、市之間前田遺跡や西小路遺跡にもみられる。張出連結部には埋設土器の代わりに石組施設を設けたものもある。石敷は全体的に丁寧で、特に炉の奥側では小礫によって間詰めをしている。本体の敷石はほぼ六角形に敷き詰めその各角に柱穴を掘って柱を建てている。六角形の敷石の外側には柱間をつなぐように縁石が並べられ、その外側に環礫がみられる。残念ながら、東側の敷石の一部はW-2によって壊されている。本遺跡の柄鏡形敷石住居跡は、全面に石を敷いているが、これは稀で、ほとんどのものは炉の周囲や壁際の一部に敷石が残っている程度であり、環状に敷いたものもみられる。

J-1の遺構の構築については、以下の通りである。①位置を決め竪穴全体を掘り下げる。②敷石下に土を張る。③ある程度の敷石を敷く。④炉穴・埋設土器穴・柱穴を掘る。⑤石圓炉を造る。埋設土器を埋める。柱を建てる。⑥前項の周囲の敷石や縁石を整える。⑦上壁または上屋壁と柱の間を作造する。このうち③の石敷きは⑤の後でもできるが、柄鏡形敷石住居跡の構築では石を敷く行為がメインであり、住居上屋の材木や屋根材を準備する以上に手間をかけて大小の礫を採集・運搬しなければならず、構築工程の中でも重要であるため先行するも

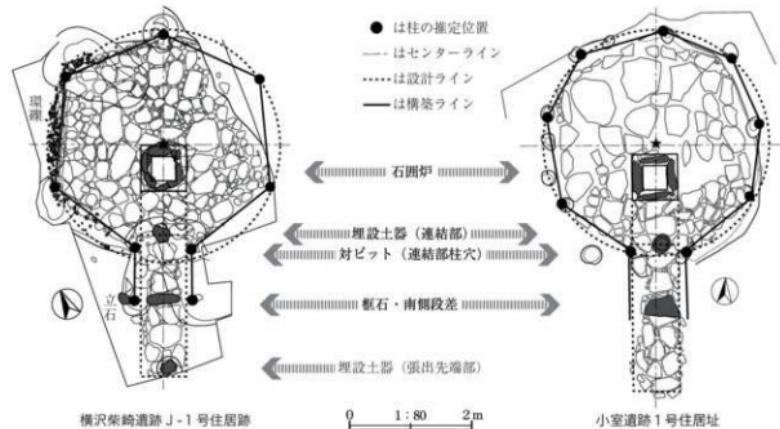


Fig.18 柄鏡形敷石住居構造図

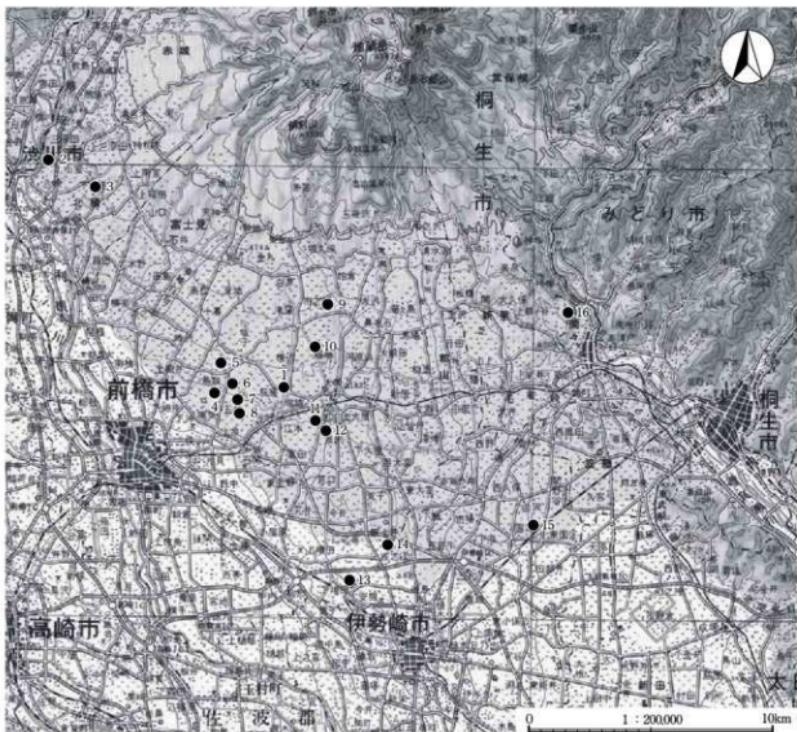


Fig.19 加曾利EIV期における赤城山西南麓の柄鏡形敷石住居跡

のと考えたい。もちろん④の穴の上には敷石が乗り、⑤の位置には敷石がない。構築順については、ほとんどの柄鏡形敷石住居跡と同様であるが、⑦の造作の内容はわかっていない。本遺跡の環甌は、主柱間を六角形につなぎ、縁石の外側に流れ込んだように堆積していく、石棒や石皿の上に乗っていた。環甌の類例は三原田遺跡に3例、小室遺跡、芳賀東部团地遺跡、荒砥二之振遺跡でみられ後期に増大する。石棒は、三原田遺跡、小室遺跡、芳賀東部团地遺跡、市之関前田遺跡、西小路遺跡、荒砥原遺跡で出土していて、祭祀的様相を感じさせる。

Tab. 6 加曾利 E IV期における赤城山西南麓の柄鏡形敷石住居跡（16 遺跡 43例）

No	遺跡名 所在地	高さ 標高	構成住居数 E IV期・敷石数	遺跡名	形状 (m)	敷石	露出 面積	幅 (cm)	埋設土器	古物 対比	備考	文献	
1	横河原台地東 面積約 175 m ²	未定	全分 2 号 E IV : 1, 敷石 : 1	J - 1号	六角形 5.5 × 3.6	全面敷 石面外側 の間隔	中央部石 面外側	約 75 cm	印石75 印石75	通前・先端部 通底部	青瓦 ビトテ遺跡	石棒 本音	
				1 - 36	-	敷石	-	(60cm)	通底部 石棒付	不明 不明			
				1 - 45	円筒形 4.8 × 2.9	複数枚 露出外側	-	-	通底部	環甌 不明			
				1 - 56	-	敷石	-	(60cm)	通底部	-			
				1 - 57	不明 (3.3 × 2.6)	敷石	敷石 露出外側	約 80 cm	印石80 印石80	-	-		
				1 - 85	-	敷石	敷石 露出外側	-	通底部	-			
				2 - 40	六角形 (7.5 × 4.2)	複数枚 露出外側	中央部 敷石露 出外側	約 90 cm	印石90 印石90	通前・鶴中部	-		
				2 - 12	-	敷石	-	(60cm)	通底部	-			
				2 - 19	六角形 5.1 × 3.4	複数枚 露出外側	中央部 敷石露 出外側	約 90 cm	印石90 印石90	通底部	青瓦 青瓦		
				2 - 35	-	敷石	-	(60cm)	印石80	印石80	-		
				3 - 1	六角形 (3.9 × 3.3)	複数枚 露出外側	敷石	約 40 cm	印石40 印石40	通底部	青瓦 ビトテ遺跡	天井	92, 97
				3 - 34	-	敷石	-	(60cm)	印石90 印石90	通底部	-		
				4 - 6	円筒形 6.2 × 4.3	複数枚 露出外側	部分敷 石面外側	約 90 cm	印石90 印石90	通前・天端部 通底部石棒	環甌 ビトテ遺跡	石棒	
				5 - 29	-	複数枚 露出外側	敷石 露出外側	約 90 cm	印石90 印石90	通底部	青瓦 ビトテ遺跡		
				6 - 1	円筒形	印石部敷	-	(60cm)	印石70	-	環甌		
				6 - 40	-	敷石	-	-	通底部石棒	-			
				7 - 29	-	敷石	-	(60cm)	通底部	環甌 不明			
				7 - 36	-	敷石	-	(60cm)	通前・通底部	青瓦 2-6			
				7 - 41	(6.1 × 3.2)	印石部敷	失走軸石	約 55 cm	通前・通底部	-			
2	三原田遺跡 西側山 岩場付近	丘陵台地上 200 m	集落 : 2-349 E IV : 20, 敷石 : 47	1号	六角形 (3.9 × 3.3)	印石部敷	中央部 敷石外側	約 40 cm	印石40 印石40	通底部	青瓦 ビトテ遺跡	天井	
				3 - 1	六角形 (3.9 × 3.3)	複数枚 露出外側	敷石	約 40 cm	印石40 印石40	通底部	青瓦 ビトテ遺跡	天井	
				3 - 34	-	敷石	-	(60cm)	印石90 印石90	通底部	-		
				4 - 6	円筒形 6.2 × 4.3	複数枚 露出外側	部分敷 石面外側	約 90 cm	印石90 印石90	通前・天端部 通底部石棒	環甌 ビトテ遺跡	石棒	
				5 - 29	-	複数枚 露出外側	敷石 露出外側	約 90 cm	印石90 印石90	通底部	青瓦 ビトテ遺跡		
				6 - 1	円筒形	印石部敷	-	(60cm)	印石70	-	環甌		
				6 - 40	-	敷石	-	-	通底部石棒	-			
				7 - 29	-	敷石	-	(60cm)	通底部	環甌 不明			
				7 - 36	-	敷石	-	(60cm)	通前・通底部	青瓦 2-6			
				7 - 41	(6.1 × 3.2)	印石部敷	失走軸石	約 55 cm	通前・通底部	-			
3	小室遺跡 西側山 岩場付近	丘陵台地上 220 m	集落 : 2-22 E IV : 1, 敷石 : 1	1号	六角形 2.8 × 2.2	印石部 露出外側	中央部 敷石外側	約 75 cm	印石75 印石75	通底部	青瓦 2-2	石棒	89
4	小室遺跡 西側山 岩場付近	丘陵台地上 142 m	集落 : 1-22 E IV : 1, 敷石 : 1	不明	-	印石部敷	敷石	-	印石70	-	円筒形		90, 93
5	方智寺遺跡 西側山 岩場付近	丘陵台地上 179 m	集落 : 1-22 E IV : 1, 敷石 : 5	J II 22号	六角形 (3.1 × 2.6)	複数枚 露出外側	敷石 露出外側	約 60 cm	印石60 印石60	通底部	-	-	96
6	芳賀東部团地遺跡 西側山 岩場付近	丘陵台地上 153 m	集落 : 全分 E IV : 6, 敷石 : 6	J - 6号	六角形 6.5 × 3.3	複数枚 露出外側	敷石 露出外側	約 75 cm	印石75 印石75	-	青瓦 2-4	石棒	13
				J - 11号	円筒形 (4.7 × 4.1)	敷石	六角形	約 90 cm	印石90	-	環甌 2-2	石棒	
				J - 13号	六角形 (3.5 × 2.5)	複数枚 露出外側	失走軸石 露出外側	約 75 cm	印石75 印石75	通底部	青瓦 2-2	石棒	36
7	古代山古墳(赤城山 西側山 岩場付近)	台地原基 179 m	集落 : 全分 E IV : 1, 敷石 : 1	J - 6号	円筒形 (2.7 × 2.6)	印石部敷	-	-	印石75	印石75	環甌 2-2		
8	古代木場古墳(赤城山 西側山 岩場付近)	古状山地上 125 m	单孔 E IV : 1, 敷石 : 1	配石	不明	印石部敷	-	-	印石50	-	-	瓦石	44
				13号	円筒形 (2.5 × 2.6)	印石部敷 露出外側	-	-	印石60	-	環甌 不明		
				33号	六角形 (4.7 × 3.5)	複数枚 露出外側	通底部石 露出外側	約 55 cm	印石50 印石50	通底部	-		
				35号	円筒形 (4.7 × 3.5)	印石部敷	部分敷	約 50 cm	印石50 印石50	通底部石棒	青瓦 2-2	石棒	96
				36号	円筒形 5.8 × 3.2	印石部敷	青瓦 露出外側	約 60 cm	印石60	通前・通底部	環甌 2-2		
				38号	円筒形 (4.7 × 3.7)	敷石	青瓦 露出外側	約 60 cm	印石60 印石60	-	環甌 不明	石棒	
9	赤城山西南麓 西側山 岩場付近	古状山地上 200 m	集落 : 24 E IV : 13, 敷石 : 5	J I 1号	六角形 (2.7 × 2.6)	印石部敷	縦有	-	先端部	青瓦 2-2	-		
				J 2号	六角形 (2.8 × 2.6)	印石部敷	縦有上層	-	-	-	-		
				6号	円筒形 (4.7 × 3.7)	印石部敷	青瓦	-	印石85	通底部	-	石棒	19
				7号	円筒形 (6.4 × 4.5)	印石部敷	部分敷 縦有	約 100 cm	印石100 印石100	通前・先端部	-	-	
10	根波新井遺跡 西側山 岩場付近	古状山地上 217 m	集落 : 全分 E IV : 8, 敷石 : 2	J 1号	六角形 (2.7 × 2.6)	印石部敷	縦有	-	先端部	青瓦 2-2	-		
				J 2号	六角形 (2.8 × 2.6)	印石部敷	縦有上層	-	-	-	-		
11	西小路遺跡 西側山 岩場付近	古状山地上 139 m	集落 : 全分 E IV : 3, 敷石 : 2	6号	円筒形 (4.7 × 3.7)	印石部敷	青瓦	-	印石85	通底部	-	石棒	
12	山ノ上遺跡 西側山 岩場付近	古状山地上 140 m	集落 : 全分 E IV : 3, 敷石 : 1	15号	不明	印石部敷	-	-	印石20	-	-		17
13	別所山遺跡 西側山 岩場付近	古状山地上 73 m	C IV 3号 E IV : 2, 敷石 : 2	C IV 3号	六角形 (4.7 × 3.7)	複数枚 露出外側	全面敷	約 75 cm	印石75 印石75	通底部	青瓦 不明	石棒	94
				2 T 1号	不明 (3.2 × 3.2)	印石部敷	-	-	印石70 印石70	-	-	瓦石	
14	赤城山西南麓 西側山 岩場付近	前野原台地上 91 m	E IV : 1, 敷石 : 10	26号	円筒形 (4.7 × 4.1)	印石部敷	全面敷	約 55 cm	印石45 印石45	-	環甌 ビトテ遺跡	-	95
15	赤城山西南麓 伊勢原付近	前野原台地上 111 m	E IV : 3, 敷石 : 14	26号	円筒形 不明	印石部敷	全面敷	約 55 cm	印石55 印石55	-	-	-	91
				27号	六角形 6.5 × 4.2	印石部敷	全面敷	約 50 cm	印石50 印石50	通底部	各角 2-2		99

参考文献

- 1 群馬県古墳墓址の研究 群馬県文化委員会調査会 1971
2 大胡城跡 大胡町 1976
3 天神城跡 大胡町教育委員会 1981
4 隆泰遺跡 前橋市教育委員会 1982
5 離町跡 大胡町教育委員会 1983
6 芳賀東部祖地遺跡Ⅰ（古墳・平安1） 前橋市教育委員会 1984
7 明治60年鹿苑城跡山道跡群（山崎・寺庭遺跡） 群馬県教育委員会 1986
8 平塚跡 大胡町教育委員会 1987
9 群馬県史資料1：群馬縣 1988
10 芳賀東部祖地遺跡Ⅱ（古墳・平安2） 前橋市教育委員会 1988
11 群馬県の土地整理団 群馬県教育委員会 1989
12 天神城跡 大胡町教育委員会 1989
13 芳賀東部祖地遺跡図（範文・中近世） 前橋市教育委員会 1990
14 萝井1・2号墳跡 大胡町教育委員会 1991
15 今城遺跡 群馬県教育委員会 1991
16 沼西1・沼西2遺跡 前橋市教育委員会 1992
17 上ノ山遺跡 大胡町教育委員会 1992
18 小林・山神・大津遺跡 大胡町教育委員会 1992
19 西小路遺跡 大胡町教育委員会 1994
20 乙西遺跡・西大津・大崎遺跡 大胡町教育委員会 1994
21 稲荷山遺跡 大胡町教育委員会 1996
22 新選3地点遺跡 大胡町教育委員会 1996
23 稲荷山2地点遺跡 大胡町教育委員会 1996
24 鹿島山遺跡（黒越二本松遺跡） 大胡町教育委員会 1996
25 小坂山遺跡1・2遺跡 前橋市文化振興会調査会 1997
26 横沢新屋敷遺跡 大胡町教育委員会 1997
27 駒越1号遺跡 大胡町教育委員会 1997
28 芳賀東部工業地帯遺跡群 前橋市教育委員会 1998
29 芳賀東部祖地遺跡 前橋市埋蔵文化振興会調査会 1998
30 五代帝宮Ⅱ遺跡 前橋市文化振興会調査会 1998
31 上佐太郎三所遺跡 前橋古文化史研究会調査会 1998
32 川臼遺跡 川臼古文化振興会調査会 1998
33 駒越内一丁目・駒越内二間替戸遺跡 大胡町教育委員会 1998
34 横沢河原・駒越二本松・横沢河山・蓬一本・本松遺跡 大胡町教育委員会 1998
35 鶴岡庄B地点遺跡 大胡町教育委員会 1998
36 上大原山遺跡・上大原山遺跡・上大原天山遺跡 大胡町教育委員会 1999
37 ローベック1号遺跡群下田大日II遺跡 前橋市埋蔵文化振興会調査会 1999
38 ローベック2号遺跡群下田大日I遺跡 前橋市埋蔵文化振興会調査会 2000
39 ローベック3号遺跡群下田大日II遺跡 前橋市埋蔵文化振興会調査会 2000
40 ローベック4号遺跡群下田大日II遺跡 前橋市埋蔵文化振興会調査会 2001
41 ローベック5号遺跡群下田大日II遺跡 前橋市埋蔵文化振興会調査会 2001
42 駒越山城跡・駒越東丸城跡 前橋市埋蔵文化振興会調査会 2001
43 五代の花・五代木桶1・五代伊勢宮1遺跡 前橋市埋蔵文化振興会調査会 2001
44 五代木桶2・五代深堀1遺跡 前橋市埋蔵文化振興会調査会 2001
45 木桶2・木桶2遺跡 大胡町教育委員会 2001
46 佩因山山頂遺跡 大胡町教育委員会 2001
47 乳崖山遺跡・莫比翁遺跡・遺跡 前橋市埋蔵文化振興会調査会 2002
48 駒越山遺跡 前橋市埋蔵文化振興会調査会 2002
49 五代伊勢宮遺跡 前橋市埋蔵文化振興会調査会 2002
50 五代伊勢宮Ⅱ・五代中里Ⅰ・五代伊勢宮Ⅲ遺跡 前橋市埋蔵文化振興会調査会 2002
51 佩因山山遺跡・佩因山山城跡 大胡町教育委員会 2002
52 駒越二本松1・2地点・大胡神社前・要塞石高遺跡 大胡町教育委員会 2002
53 五代伊勢宮Ⅳ遺跡 前橋古文化史研究会調査会 2003
54 五代伊勢宮Ⅴ・五代中里Ⅱ遺跡 前橋市埋蔵文化振興会調査会 2003
55 五代の花Ⅱ・五代木桶Ⅲ遺跡 前橋市埋蔵文化振興会調査会 2003
56 五代の星Ⅱ・五代山野道1・五代山野道2・五代山野道3遺跡 前橋市埋蔵文化振興会調査会 2003
57 駒越多木A・C地点遺跡 大胡町教育委員会 2004
58 五代木桶2・五代深堀1遺跡 前橋市埋蔵文化振興会調査会 2005
59 芳賀東部祖地遺跡Ⅲ 前橋市埋蔵文化振興会調査会 2005
60 小坂1・2号墳跡 前橋市埋蔵文化振興会調査会 2005
61 富田遺跡・富田下大日遺跡 群馬県埋蔵文化委員会 2006
62 江木下大日遺跡 群馬県埋蔵文化委員会 2006
63 小坂1・2号墳跡Ⅱ 前橋市埋蔵文化振興会調査会 2006
64 駒越多木D地点・駒越山河跡 前橋市埋蔵文化振興会調査会 2006
65 駒越山河跡 群馬県埋蔵文化振興会調査会 2006
66 天神城跡遺跡群 前橋市埋蔵文化振興会調査会 2006
67 宮野日山跡 群馬県埋蔵文化振興会調査会 2007
68 横沢川・反田遺跡 前橋市埋蔵文化振興会調査会 2007
69 石岡山川遺跡Ⅱ 前橋市埋蔵文化振興会調査会 2007
70 五代伊勢宮遺跡（1） 前橋市埋蔵文化振興会調査会 2007
71 駒越上遺跡 群馬県埋蔵文化調査事業団 2008
72 丸坂上遺跡 群馬県埋蔵文化調査事業団 2008
73 丸坂東久保Ⅱ・筑前南川遺跡 群馬県埋蔵文化調査事業団 2008
74 上武道跡・旧石器時代遺跡群（1） 前橋市埋蔵文化調査事業団 2008
75 五代伊勢宮遺跡（2） 前橋市埋蔵文化調査事業団 2009
76 上武道跡・旧石器時代遺跡群（2） 群馬県埋蔵文化調査事業団 2010
77 上久慈ノ瀬遺跡 群馬県埋蔵文化調査事業団 2010
78 上久慈ノ瀬遺跡 群馬県埋蔵文化調査事業団 2011
79 上久武道跡 群馬県埋蔵文化調査事業団 2012
80 五代御徒森跡群 群馬県埋蔵文化調査事業団 2012
81 上式道路・旧石器時代遺跡群（3） 群馬県埋蔵文化調査事業団 2012
82 五代御徒森跡 No.2 前橋市教育委員会 2015
83 安井女郷 前橋市教育委員会 2016
84 群馬県古松松原 群馬県教育委員会 2017
85 五代伊勢宮Ⅲ遺跡 群馬県教育委員会 2018
86 黒船甲丸山D遺跡 面鏡の教育委員会 2018
87 天神城跡遺跡 M地点 前橋市教育委員会 2019
88 天神城跡遺跡 N地点 前橋市教育委員会 2020
89 小寺遺跡 北橘村教育委員会 1968
90 南磐市史跡1巻 前橋市 1973
91 駒川遺跡調査概要1・2 村野村教育委員会 1979
92 三原山遺跡3 群馬県企画局 1980
93 小寺明通跡 前橋市教育委員会 1982
94 花畠前庭遺跡 群馬県埋蔵文化調査事業団 1985
95 丸山二之瀬遺跡 群馬県埋蔵文化調査事業団 1985
96 芳賀北曲輪遺跡 前橋市埋蔵文化調査事業団 1990
97 三原山遺跡3 群馬県企画局 1992
98 武之瀬面鏡山遺跡 官城村教育委員会 1992
99 濱口1・2号墳跡（A・B区） 大胡・町教育委員会 1999
100 三ツ子1号墳跡 群馬県埋蔵文化調査事業団 2000
101 満木大久御堂跡 水城村教育委員会 2003
102 道跡 群馬県埋蔵文化調査事業団 2013
103 史跡 上毛上石原時代住跡 みなかみ町教育委員会 2016
104 丹木大舟遺跡Ⅱ 昭和村教育委員会 2018



J-2号住居跡 全景（北から）



J-2号住居跡 炉（南から）



J-2号住居跡 炉体上器（東から）



集石遺構（東から）



W-2号溝、D-6~8土坑（東から）



D-1号土坑 全景（西から）



D-6号土坑 全景（南西から）



D-9号土坑 全景（南から）



D-10号土坑 全景 (南東から)



D-11号土坑 全景 (北西から)



W-1号溝 全景 (北から)



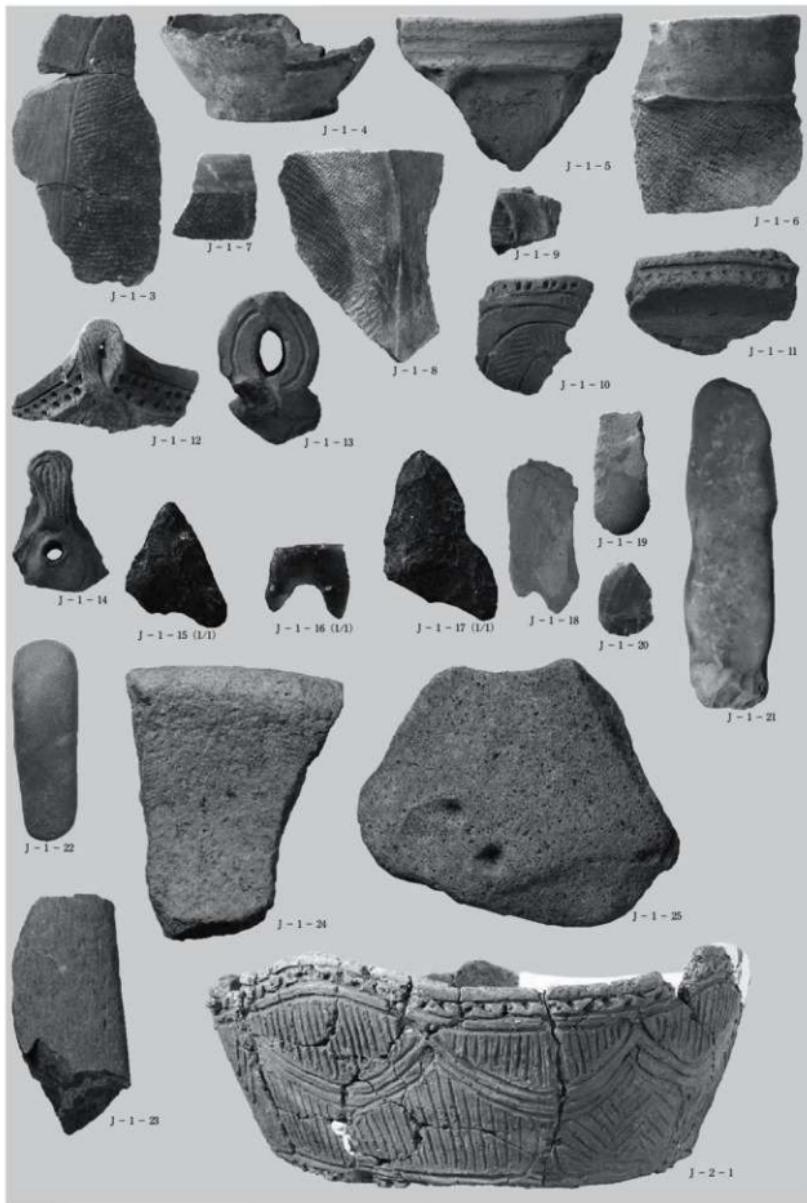
包含層調査風景 (南から)

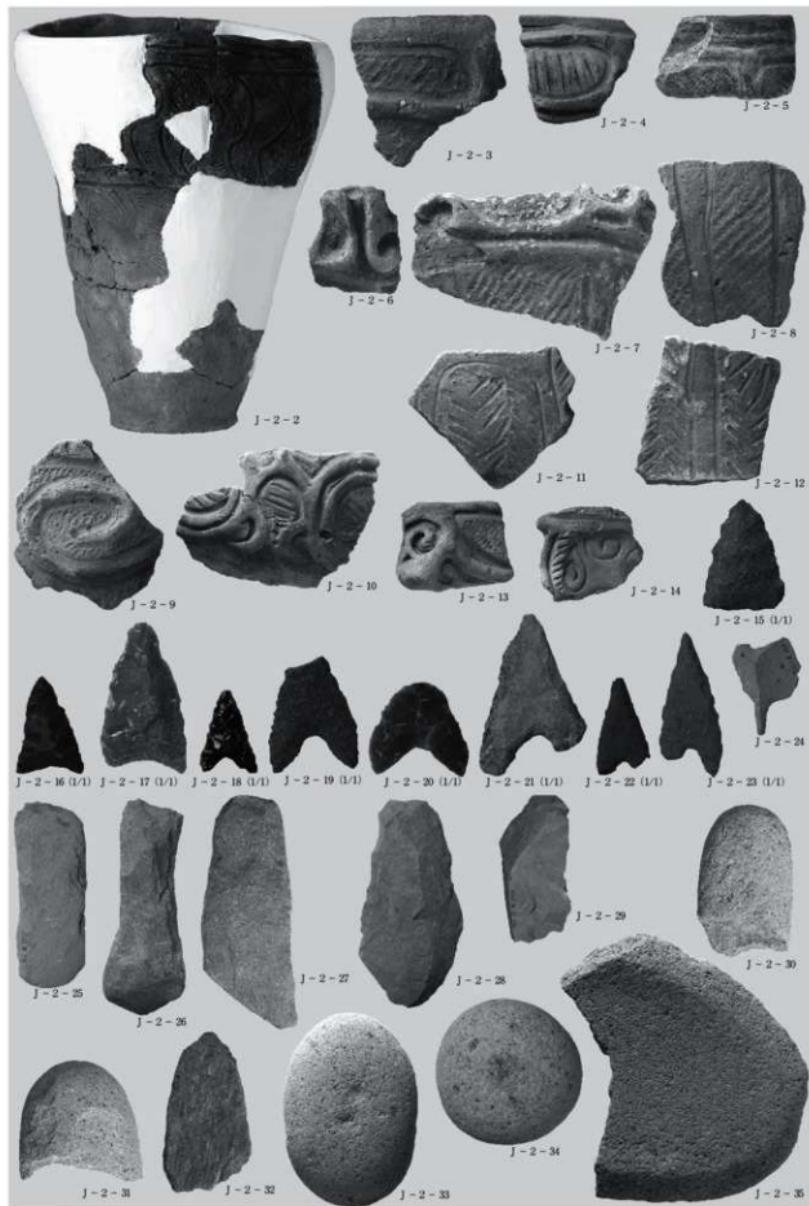


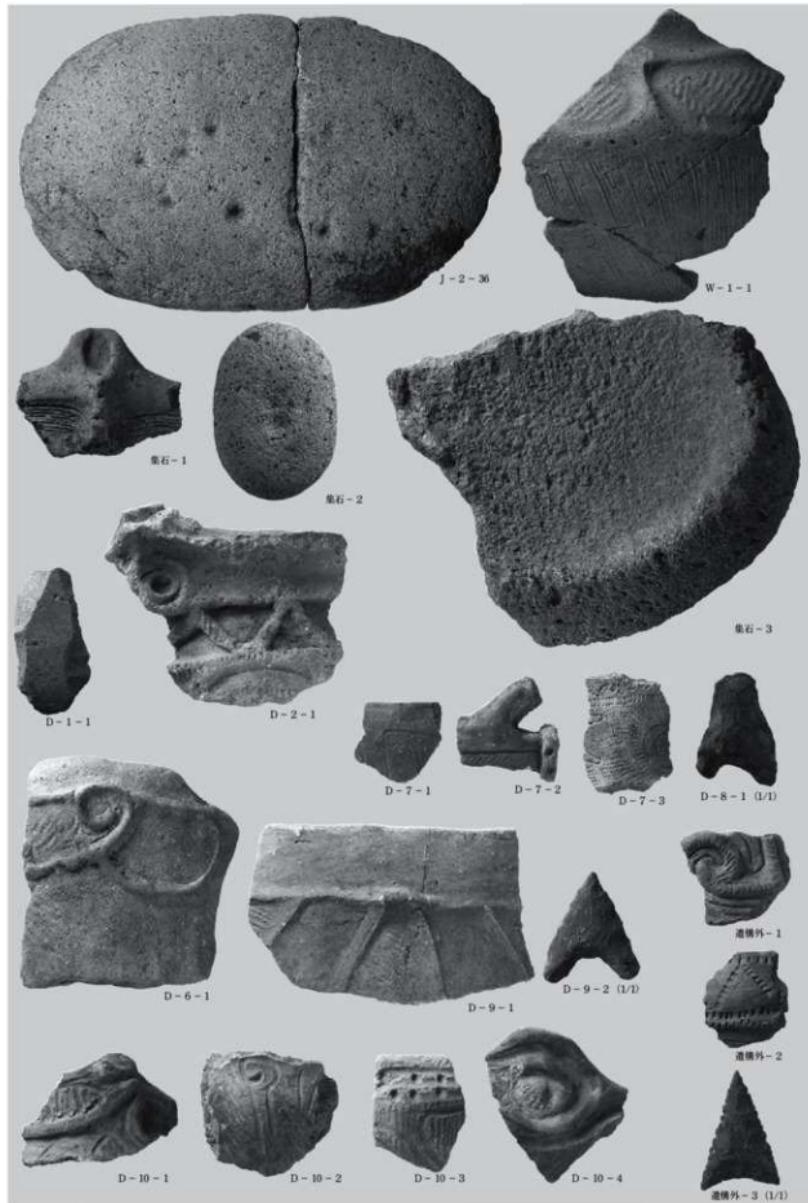
陶石器-1 (1/1)

J-1-2

J-1-1







報告書抄録

カタカナ	ヨコサワシバサキイセキ
書名	横沢柴崎遺跡
副書名	店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	-
シリーズ名	-
シリーズ番号	-
編著者名	並木史一・三宅敦氣・松村春樹
編集機関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371-0033 群馬県前橋市国領町2丁目21番地12
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371-0853 群馬県前橋市総社町3丁目11番地4
発行年月日	2022年6月30日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村	位置			調査期間	調査面積	調査原因
			遺跡番号	北緯	東経			
横沢柴崎遺跡	前橋市横沢町32番	102016	3113	36°24'51"	139°8'28"	2022.03.01 ～ 2022.03.25	152m ²	店舗建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
横沢柴崎遺跡	集落 遺物包含層	縄文時代 中～後期	敷石住居跡 堅穴住居跡 土坑 集石遺構 溝 ピット	1軒 1軒 10基 1基 2条 6基	細石刃核 縄文土器 石器	縄文時代中期後半の集落。 加曾利E III期の大型堅穴住居跡。 加曾利E IV期の柄鏡形敷石住居跡。

横沢柴崎遺跡

店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2022年6月17日 印刷
2022年6月30日 発行

発行 前橋市教育委員会事務局文化財保護課
〒371-0853 群馬県前橋市総社町3丁目11番地4
TEL 027-280-6511

編集
技研コンサル株式会社
印刷
朝日印刷工業株式会社

